

# 卒業生の声

## (体験談とアドバイス集)

実習や採用試験（就職活動）に向けた、学生生活の過ごし方、事前準備、勉強方法等について、大変貴重な体験談とアドバイスをいただいています。

教員や保育士を目指す皆さんは、必見の内容です！

### <閲覧上の注意>

「卒業生の声」は、全て先輩方が執筆されたものです。執筆当時の情報が掲載されていますので、勤務先・身分、試験制度等は現在の状況と異なる場合があります。

2025年10月編

# コンテンツ一覧

チェックボタンを押すと該当ページにジャンプします。

小学校教諭

中学校教諭

国語科

社会科

数学科

理科

英語科

高等学校教諭

国語科

理科

工業科

農業科

特別支援学校教諭

幼稚園教諭

保育士

栄養教諭



## 小学校教諭

Mさん

- ・2017年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、神奈川県公立学校で小学校教諭として活躍中
- ・在学時は陸上競技部に所属し、たくさんの功績をあげ、数々の賞を受賞している。

### 実習について

実習前に準備したのは、配当学年の授業の予習です。

万全の態勢で実習に臨めることができれば、有意義な実習となります。実習前の事前打ち合わせの際に、担当する学年とそのクラスの雰囲気を予め教えていただきました。

授業の準備では、実習担当の先生に確認し、授業範囲を把握しました。自分流にどういった授業を組み立てるかを構想し、教材について調べました。

実習中に苦労したことは、子ども同士のトラブルを任されたときでした。たくさんの先生方にアドバイスをいただきながら、両者の言い分をしっかりと聞き、解決に導くよう自分なりに試行錯誤しました。

教育現場では、いかに素早く対応できるかが重要であることを教えていただきました。

努力したことは、事前の準備です。実習では様々な教科を行い、それぞれの教科で事前準備に多くの時間を費やしました。

どんな言葉や表現が伝わりやすいか、どう引き付けるか、たくさん考えました。授業では子どもたちが、キラキラした目でこちらを見て、一生懸命に話を聞いてくれました。

実習中は多くの先生方が優しく見守っていただき、分からないことも快く教えてくださいました。実習中は自分から、たくさんの先生方と積極的にコミュニケーションを図りました。

そんな実習の中で、何事においても人間関係が重要であることを学びました。子どもや教職員、保護者や地域の方たちとの協力体制は、信頼によって構成されていることを知りました。

### 教員採用試験について

試験前に準備したのは、受験する県や政令指定都市の試験内容と傾向をつかむことでした。

地域によって試験内容や求める教師像、抱える問題などが異なります。それらのニーズに合った方法を探るため、資料や説明会、過去問題を活用しました。

筆記の勉強に加え、面接や集団討論、模擬授業や場面指導といった技能面の練習など、とにかく時間が足りませんでした。

受験した県は面接重視でしたが、場面指導や模擬授業など、地域によって特色があります。ゼミの先生や教育実習センターの先生にお願いし、何度も繰り返し練習を重ねました。

暗記が必要なものは、電車の中で単語カードで覚えたり、一緒に勉強する仲間を作り、問題を出し合うなど、分からないときにはいつでも誰かに確認できる環境を整えました。

試験直前は、最後のチャンスです。直前に見た問題が出題されたからです。

自分でまとめたノートや単語帳も持っていきました。実習中に子どもたちからもらったお守りは、試験に挑む勇気をもらいました。

### 今後の目標・夢

教壇に立ち、子どもの前で様々なことを教えますが、一人でも多くの子どもたちが、自分の夢に迷いなく全力で向かっていけるようになってほしいです。

様々な立場で、多くの見方、考え方ができる、視野の広い教員になりたいです。

### 後輩へのアドバイス

採用試験の面接官は様々です。面接練習では、多くの人と行くと、自分の力になります。たくさんの先生にご指導をいただき、他学科の友達や他大学でも面接練習をしました。人との輪を大切に、互いに高め合っていくことで、自分の考えも広がると思います。

## 小学校教諭

Nさん

- ・2020年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、愛知県内の公立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

小さい頃から年下の子どもと遊ぶことが好きだったこと、また、小学生の時、自信のもてない自分を励まし、勇気づけて下さった先生方との出会いがあり、教員という仕事に興味を持ちました。教育学部に入学し、ボランティア活動やインターンシップ、海外や離島で教育実習をして児童の笑顔を見た時に、教員になりたいという気持ちが強くなりました。

### 実習について

特別支援学校の教育実習では3年生を、小学校の教育実習では小学校2年生を担当させていただきました。小学校の実習をして良かったことは、児童の笑顔を毎日見ることができたことです。やるべきことが多くても児童の笑顔を見るために教材研究することが楽しく感じられました。苦労したことは、一人一人に合った授業をすることです。算数の時間に、早く問題を解き終わった児童が、まだ解き終わっていない児童にミニティーチャーとして教える、という担任の先生が行っていた授業を取り入れたのですが、答えを教えてしまう場面を見かけ、3年生が自分の言葉で解き方や考え方を説明することの難しさを感じました。

4週間という短い期間でも、児童との思い出が深く残り、失敗も含めてこのような経験を積み重ねていきたいという気持ちが強くなりました。

### 採用試験・就職活動について

私は大学で様々な人との関わり方を学びたかったので、フィリピンでの教育実習、カナダ留学、渡嘉敷島で教育実習、不登校児童のボランティア活動、 commons サポーター、なるほど！子どもアカデミーなどに参加してきました。どの経験も自分の自信に繋がり、教育現場に立った時にも生かせると思っています。興味を持ったことには時間をつくって、挑戦してきました。

教員採用試験は、複数の友人と出題されそうな試験問題や面接の出し合いをして励まし合って試験に挑みました。今まであまり関わったことがなかった人とも一緒に勉強したことで考えが広がりました。

### 後輩へのアドバイス

勉強が得意ではなかったのですが、私を良い方向へ導いてくれる友人がいてくれたので合格できました。自分を引っ張ってくれる存在や共に頑張れる人と一緒に勉強や面接練習をすることをおすすめします。

高校生までは多くの教材の問題を解いたのですが、同じ問題集を何回も繰り返すことが良いことを今回の試験で学びました。勉強はやる気が出ないことがあると思いますが、やる気がなくてもシャープペンを握って問題を一問だけ解くと意外と集中して勉強に取り掛かることができました。後は、楽しみながら取り組むと良いです。勉強でも勝手に自分で面白い語呂合わせを作ったり、面接も先生や友人と話している感覚でいたりすると、試験対策が苦では無くなります。応援しています。頑張ってください。

## 小学校教諭

Yさん

- ・2021年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、愛知県内の公立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

小学校での楽しい思い出があったからです。高校時代、部活動を引退し、進路の選択を迫られた時、自分がどのような職業についてみたいか考えました。その時、一番に思い浮かんだのは、小学校時代の楽しい思い出でした。信頼できる先生や友人たちに囲まれ、毎日学校へ行くことが楽しみになっていました。このことから、自分と同じように、学校へ行くことが楽しみだと思わせられるような教員になりたいと思いました。その後、大学に進学し、実習や子どもアカデミー、ボランティアなどで子どもに関わっていくにつれ、その思いは膨らんでいきました。

### 実習について

苦労したことは、コロナウイルスの影響により実習期間が2週間になってしまったことで、児童の実態を把握することが難しかったことです。授業を参観させていただきながら様子を観察したり、休み時間に一緒に遊んだりして児童と積極的に関わりました。しかし、それだけでは把握できていないことが多く、研究授業では、児童にとって難しい内容を組み立ててしまったことが一番の反省点になりました。

よかったことは、苦労したことも踏まえ、教員という職業の大変さを知ることができたことです。授業に関わるだけでなく、学級経営や児童への寄り添い方など、多くのことを学ぶことができました。

### 採用試験・就職活動について

私は、過去問や練習問題をたくさん解きました。もともと覚えることが苦手であったため、間違えたところを覚えていくという方法で勉強していきました。この時、自分の苦手な教科を得意とする友達に、わからない問題を教えてもらいながら取り組むことでしっかりと理解できるようにしました。

在学中にやるべきことは、ボランティア活動などを通して、児童に関わる機会をつくることだと思います。児童の普段の様子や、関わり方などは実習だけではわかりません。そのため、自分から機会を増やしていく、児童と積極的に関わってみることが大切だと思います。これは面接でも生かせる経験になります。

### 後輩へのアドバイス

私が採用試験の勉強をするうえで心がけていたことは2つあります。

1つ目は、自分が集中できる環境で勉強するということです。集中してできなければ、勉強しても意味がありません。そのため、「ここにいる間は頑張ろう」と、気合を入れて勉強できる場所を見つけておくといと思います。

2つ目は、互いを高め合える友達と一緒に勉強するということです。1人ではわからないことも、誰かがいればわかることがたくさんあります。さらに、私は、友達が頑張っている姿を見て、自分を奮い立たせたことが何度もありました。勉強ばかりでつらいのはみんな同じです。1人で抱え込まず、最後まで頑張ってください。

## 小学校教諭

Sさん

- ・2022年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、愛知県内の公立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

私は、元々前に出るのが苦手だったのですが、小学五年生の時に、担任の先生に運営委員に推薦されたことがきっかけで自信が付き、積極的な行動が取れるようになりました。そこで、私は、このように子どもに自信を持たせられる教員になりたいと思いました。

### 実習について

小学校実習では、二年生を担当しました。よかったことは、3クラスで研究授業をやらせていただいたのでクラスによって反応が違うことを知ったり、多くの児童と話したり、放課に遊んだりすることができたことです。担当クラスだけではなく、他の学年やクラスの先生の授業を見学し、タブレットを活用した授業や私の苦手な音楽の授業方法を学びました。苦勞したことは、指導案通りに授業が進まず、担当教諭と何度も授業展開を考え直したり、意見発表の時間に児童から欲しい答えがなかなか出なかったりしたことです。

### 採用試験・就職活動について

在学中には、部活やサークルに所属して縦のつながりを大切にしたり、小学校ボランティアなどの子どもと関わる機会を持ったりすることが大切だと思います。私は、子どもアカデミーやわんぱく隊農園班に所属していました。それらの活動では、実際に子どもと関わることで、子どもを楽しませる技や、安全上の配慮、叱り方・褒め方などを考えることができました。また、教育学部の先輩達と関わることで授業やテスト、教員採用試験に関することを教えていただくことができ、とても有意義な経験になりました。

### 後輩へのアドバイス

採用試験の勉強は、一緒に頑張れる友人と集まって勉強することをオススメします。お互いの分からない問題を教え合ったり、重要な語句は語呂合わせを作って一緒に覚えたり、不安や焦りで苦しくなっても一緒に勉強してくれる仲間がいたから頑張れました。面接対策も同様です。面接対策では、教育に関する話題を教授や友人と話すことも知識の幅が広がってオススメです。教育実習センターの面接対策に通って、あまり喋ったことのない子ども面接練習をしたり、みんなの場面指導を見たりして学びました。みんなで話し合った内容が二次試験の面接で出たときは笑みが溢れてきます。

## 小学校教諭

Mさん

- ・ 2022年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・ 現在、浜松市立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

私が小学校の教員になりたいと思い始めたのは、高校生の時です。私は、高校生の時、勉強が苦手な妹によく勉強を教えていました。その際、ただ教えるのではなく、自分で教材を作成したり主体的に学べるようにしたりなど、さまざまな工夫をしました。その結果、妹の学力が向上しただけではなく、勉強に対する意欲の向上にも繋がりました。このような経験から、人に何かを教える楽しさや達成感を味わうことができました。以上のことより、将来も人に何かを教える職業に就きたいと考え、教員を志望しました。

### 実習について

私は、小学校教育実習を通して、さらに教員になりたいという思いが強くなりました。児童と関わる楽しさや「先生の授業楽しい」などの児童のつぶやきから達成感を味わうことができたなど、教員という職業の魅力を実感する4週間でした。苦勞したことは、授業中に自分が想定していない発言が出てしまったときの授業の展開方法です。最初に授業をやらせていただいた際、児童の発言の中に自分が想定していなかった発言がありました。その際、テンパってしまい上手く授業を展開することができませんでした。このことから、授業を考える際は、いくつかレパートリーを持っておくことの大切さを学びました。しかし、児童の意見を想定しながら作らなければいけないので、難しくとても苦勞しました。

### 採用試験・就職活動について

まずは、自分が受けたいと考えている自治体の傾向をつかむことが大切です。傾向をつかむために、私は、過去問5年分を最初に解きました。過去問を解くことで、その自治体で出やすい領域などを理解することができ、効率よく勉強することができました。その後は、東京アカデミーの問題集と参考書を用いながら勉強を進めました。分からないところは1人で抱え込まず、友達に教えてもらっていました。また、教職教養の勉強では、「きょうさい対策ブログ」というYouTubeチャンネルを用いました。電車での移動時間など、隙間時間で効率よく勉強することができるので、是非使ってみてください。

### 後輩へのアドバイス

採用試験の勉強は、1人でやるのではなく、友達とやることをおすすめします。私は、ほぼ毎日学校に来て仲のよい友達と勉強をしました。友達とやることによって、分からなかったことを友達に聞いて教えてもらったり、逆に友達が分からないところを私が教えたりすることを行うことができ、さらに私自身の学びが深くなりより理解することができました。また、「友達がやっているから頑張らない」という強い刺激になり、やる気の向上にも繋がりました。たしかに1人で集中して勉強する時間も必要だと思います。しかし、友達とやるメリットも上記に述べたようたくさんあるので、是非友達とも勉強してみてください。

## 小学校教諭

Hさん

- ・2023年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、愛知県内の公立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

私が教員を目指した理由は、学校や友達、先生のことが大好きだったからです。熱血漢である中学校3年生の担任の先生の姿を見ていて、教員の仕事のやりがい子どもながらに感じていました。

教育実習に行ってみて、大変なことも多くありましたが、それ以上に子どもたちの成長に感銘を受けました。そして、子どもたちのために自分自身が努力することが楽しいと感じ、教員は多くのやりがいにあふれている職業であることを実感することができました。教育実習の経験を通して、より一層生涯の仕事にしたいという気持ちが高まりました。

### 実習について

教育実習に行ってもよかったことは、教員の仕事のやりがいを感じる事ができた点です。慣れない毎日で、睡眠時間を削って次の日の授業準備をしていましたが、授業後「先生の授業おもしろかったよ。」と子どもたちが駆け寄ってきたときには、頑張ってもよかったと心の底から思う事ができました。

苦労したことは特別な支援を必要とする児童の対応をしながら授業を進めることです。担当学級には書くことが苦手な児童がおり、なかなかノートに書く作業ができませんでした。そこで早くできた児童には、問題の答えを黒板に書きにきてもらったり「小さい先生」になってもらい近くの子と教え合いをさせたりしている間に個別に対応し、早く終わった児童にとって有意義な時間となるよう努めました。

### 採用試験・就職活動について

私の教員採用試験のスタートは、3年生の夏休みです。大学では東京アカデミーの講座を受け、その日のうちに学習した分を復習することを心がけました。10月から12月には過去問を5年分解き、受ける自治体の傾向をつかみながら夏休みに学習した内容の復習を重ねました。春休みには小学校全科のインプットを始めました。夏までは弱点を補充したり問題を解いたりして間違えた部分を学習し直しました。

面接対策は10月頃から月に4回ほど教育実習センターへ通い、先生方にご指導いただきました。また、週に1,2回は友達と面接練習をし合っていたと思います。

全体を通して、毎日コツコツ、計画的に取り組むことが大切です。途中で嫌になり、挫折しそうになることもあるかと思いますが、そんなときは一緒に頑張ってくれる仲間存在に助けられました。授業以外の時間には一緒に図書館で勉強したり、休日には勉強の進み具合を連絡し合ったりする仲間がいたので最善を尽くすことができました。最後まで一緒に頑張ってくれた仲間には感謝してもしきれません。

### 後輩へのアドバイス

教員採用試験は、受験と同様、団体戦だと思っています。友達同士で協力し合いながら切磋琢磨することで、時にやめたくなくても「みんなが頑張っているから私も頑張れる」とモチベーションを高めることができます。また、面接対策のためには日頃からさまざまなことに興味を持ち、自分の意見をきちんと持つことが重要です。採用試験直前になって焦ることのないよう前もって計画を立て、合格に向けて励むことが一番大切なことだと思います。

## 小学校教諭

Tさん

- ・2023年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、福井県内の公立学校で小学校教諭（特別支援学級）として活躍中

### 志望動機について

私が教員を目指したきっかけは、弟に知的障害があり保育所に通っているときには、発語もなく全くコミュニケーションが取れない状態でしたが、特別支援学校に通うようになってから徐々にコミュニケーションが取れるようになり、笑顔が増えるのを実感し、学校教育の力を感じたからです。そこから、人を成長させることができる仕事、笑顔にできる仕事である教員に魅力を感じ目指すようになりました。

### 実習について

小学校教育実習では、母校に行かせてもらいました。4週間の教育実習で2週間目から徐々に授業をさせていただき、たくさん実践、経験を積むことができたのが良かったと思います。一方で、私が思い描いている子どもとのギャップが大きくあり、最初の一週間はクラスになれるのがすごく大変だと感じました。また、発達障害の傾向のある児童もクラスに在籍していたため、その児童への指導も苦勞しました。何事も経験だと思うので、実習から今の子どもたちの実態を知り、今後の教員生活に生かすことができる経験になったと思います。

特別支援教育実習では、学習指導の面がすごく難しいと感じました。その子の実態に合った指導が必要で、毎時間工夫をして取り組んでも、前向きに取り組んでくれないこともあり授業を作る難しさを痛感しました。現在は、通常の学級にも障害のある子どもが在籍していることが多いため、その経験としてもいい実習になったと思います。

### 採用試験・就職活動について

筆記の勉強は3年生の10月頃から本格的に始めました（模試の判定が低すぎて焦って始めました）。私が最後まで勉強を続けられたのは、一緒に頑張る仲間がいたからだと思います。勉強を一緒にやることで、負けたくないという気持ちや互いに成長したいという気持ちで、切磋琢磨できたと思います。参考書、問題集、過去問を何周も解きました。また、友達の問題集や過去問も借りていろんな問題を解くようにしました。

教員採用試験は、今は人物重視とも言われているため面接にも力を入れて取り組みました。教職課程センターの先生方とお話をする内に知識も付くし、実践的な力も身につくのでできるだけたくさん行くことをおすすめします。他の大学では、ここまで手厚いサポートはないので是非活用すべきです。

参考書：東京アカデミー

問題集：東京アカデミー、時事通信社、まるごと問題集（2年分）

過去問：福井県、群馬県（福井と問題が似ているため）

### 後輩へのアドバイス

大学生ということで、今しかできないことを全力で楽しむことがまず私は大切だと思っています。しかし、メリハリをつけてやるべきことがあるときは、それに全力を注ぐことが大切です。私は、3年生の10

月からはほぼ遊ばず勉強漬けの毎日でしたが、それも1つの良い思い出になっています。ただ楽しいことに逃げるのではなく、やるべきことをやって全力で遊んで楽しんでほしいです。

一人では逃げ出したくなることもあると思います。友達同士助け合って、切磋琢磨して合格目指して頑張ってください。応援しています。

## 小学校教諭

Hさん

- ・2024年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、茨城県内の公立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

私が教員を志望した理由は中学時代の恩師に憧れを抱いたからです。中学時代の私は部活動の怪我や進路選択などで悩む場面が多くありました。そんな時に恩師である部活動の顧問の先生が私の話を親身になって聞いてくださり、今自分がやるべきことがハッキリとしたことで前向きに様々な事に取り組めるようになりました。この経験から私も子供に寄り添い、背中を押すことのできる教師になりたいと想い、教員を志望しました。

### 実習について

私が実習で経験した良かったことは、自分の取り組みが子供の成長の手助けになっていることを実感することができたことです。私は2年生の国語のうれくなる言葉という単元を担当しました。その最初の授業で「みんなの身の周りにうれくなる言葉はあるかな？」という発問をした際に一人の男子児童が「僕の周りにはない。」と言っていました。その後、4回の授業を通して同じ問いかけをした際にその男子児童は「僕の身の周りにはうれくなる言葉が沢山あって、僕はそれを見つけるのが得意なんだ。」と言っていました。この経験から自分の取り組みが子供の成長の手助けになっていると感じることが出来ました。

### 採用試験・就職活動について

勉強方法は私は友達との3~4人のグループで自習室を利用しながら対策に取り組んでいました。友達と相談しあいながら、お互いに勉強に取り組んでいる様子が刺激になって継続して勉強に取り組むことが出来ました。学習の記録を付けながら、1週間ごとに学習計画を立てて、見通しを持ちながら勉強に取り組みました。また、面接練習も多く行いました。筆記試験は自分一人でも対策は行いやすいですが、面接練習は元教員の方々から直接ご指導や助言をいただけるのでなるべく多く行い、本番でも自分の力を発揮できるように意識しました。

### 後輩へのアドバイス

採用試験に向けての不安があるとは思いますが、この中部大学には私達の目標や夢をサポートしてくれる素晴らしい環境が揃っています。自分の目標に向けて、仲間と励まし合い、高めあいながら頑張ってください。困った時は先輩方や先生方、職員の方々から親身に相談にのってください。一人ではないので目指せる目標があると思います。その為にも自分を信じ、周りの方々の力を借りながら、この中部大学で自分の夢を叶えてください！応援しています！！

## 小学校教諭

Iさん

- ・2024年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、名古屋市立の公立学校で小学校教諭として活躍中

### 志望動機について

中学生の時に出会った数学の先生に憧れて教員を目指しました。元々勉強は苦手ではなかった私ですが、その先生に出会い楽しく授業をされている姿や分かりやすい授業のおかげでもっと勉強が好きになることができました。そんな先生になり、数学嫌いの子どもたちを少しでも減らしたいと思いました。さらに、大学生になり塾の講師や重症児の子どもたちが通うデイサービスなどのアルバイト経験から、様々なニーズを必要とする子どもたちと触れ合う機会を大切に、子どもたちの成長に対し喜びとやりがいを感じ、より教員になりたいという気持ちが高まりました。

### 実習について

私は、小学校と中学校の2校で実習をさせていただきました。良かった点は、数学が苦手な生徒は小学校の算数でつまづいているということが分かったことです。小学校の子どもたちが算数を好きになってくれることや分かる内容を増やすことが私の課題の1つとなりました。また、先生方の工夫された授業も間近で見ることが可能なのでごく勉強になりました。一方で、理解度が違う30人以上の児童生徒への授業の進行に苦戦しました。実際にクラスの全員が分かってくれるような授業をしようとする、思うように授業が進まないことがありました。授業時間も限られている中で、全員が分かる授業の実現についても私の今後の課題として挙げられています。

### 採用試験・就職活動について

私は、教員採用試験の勉強を3年生の夏休みから始めました。大学では東京アカデミーの講座を受けていました。友だちと一緒に分からないところを考えたり、語呂合わせを声に出して覚えたりして無理なく楽しく勉強することを心がけていました。面接練習に通い始めたのは3年生の12月頃からです。教職課程の分室で先生方にご指導いただき、自分の考えを自信をもって言えるようになるまで練習しました。

1次試験の前日まで実習があり、勉強する時間を取ることが厳しかったのですが、計画的にやるべきことをリストアップしてこなすことが大切です。また、辛い時期を乗り越えられたのは一緒に頑張ってくれた仲間がいたからだと思っています。自己表現をする事が苦手な私に「笑顔」という武器を生み出してくれたのは、仲間のおかげです。仲間と一緒に頑張ることが合格へ近づく第一歩だと思います。

### 後輩へのアドバイス

教員採用試験の勉強に苦戦して逃げたくなるときもあると思います。そんなときは、一緒に頑張ってくれる仲間の存在を気に掛けてみてください。一緒に勉強したり休息したり、仲間と頑張ることで心が軽くなると思います。また、面接練習は積極的に友だちと行うことをおすすめします。自分のことを知ってくれているからこそ自分の知らなかった武器や鋭いアドバイスをしてくれると思います。私にとって友だちと協力して勉強や面接練習をすることは有意義な時間でした。

コンテンツ一覧に  
戻る

## 中学校教諭（国語科）

Hさん

- ・2021年度 人文学部 日本語日本文化学科 卒業
- ・現在、愛知県内の公立中学校で国語科教諭として活躍中

### 志望動機について

私は昔から教員になりたいと思っていただけではありませんでした。大学に入学し教職課程があることを知り、将来のことを考えて、とりあえず履修してみようという安易な気持ちで履修しました。しかし、そのような安直な理由で履修した教職課程でしたが、実際に教職課程の授業を受けていくうちに、教員という職業に魅力を感じ始め、真面目に教員を目指すようになりました。

また、教育実習で実際の教育現場を経験し、これほどやりがいのある職場は他に中々ないと思い、より教員になりたいという気持ちが高まりました。

### 実習について

まず教育実習期間中は、常に時間に追われていました。朝はその日の授業の準備や挨拶運動のため生徒達よりも早く学校に来ていなければなりません。そして日中は、授業観察や授業実習があり、空き時間があっても生徒たちのワークシートを見たり、観察記録・実習記録を書いたりしなければなりません。

また、放課後には、次の日の授業の準備やその日の授業の反省を指導教官の先生と行ったり、日誌を書いたりするため、帰りは遅くなります。このように実習期間中は、朝早く起き、日中は常に何かを行い、放課後も作業をし、帰りが遅くなるため肉体的にとてもしんどいです。また、不慣れなことをしているため精神的に疲れることもあります。そうした日々が続く中で頑張れたのは、常にやりがいを感じていたからだと思います。

時間をかけて考えた授業を行ったときの生徒たちの反応や先生方からのお褒めの言葉を聞くととても嬉しく次も頑張ろうという気持ちになりました。また、授業の反省で先生からいただいたアドバイスを参考にして行った次の授業で、前回よりもうまく授業が進められたときは、自分の成長を実感することができました。この他にも様々な場面でやりがいを感じることもあり、それらを糧として実習期間を全うすることができました。私は実際の教育の現場でこうしたやりがいを身をもって感じ、教員という仕事の素晴らしさを再確認することができました。

### 採用試験・就職活動について

私は教員になることを目指していたので就職活動は行っていませんでした。

採用試験の勉強を本格的に開始したのは3年生の1月で試験まで約半年でした。私は、1年目で合格することは難しいと思っていたため、まずは1次試験を突破することだけを考えていました。そのため試験までの約半年間は教職専門と教科専門の勉強を行っており、一般教養に関しては範囲が広すぎるため例年出題されている文学史に絞って勉強をしていました。そして、2次試験で評価される小論文と面接に関してはほとんど対策を行っておらず、小論文に関しては試験前日に必要最低限のルールを頭に入れ、面接は1次試験の合格発表後に地元の教員を目指す友人たちと数回練習を行ったぐらいでした。

結果として合格はしたものの小論文と面接の評定は芳しくありませんでした。そのため私は早い段階から小論文と面接の対策をすることをおすすめします。ただ1次試験を合格しないことには2次試験を受けることさえできないため、1次試験を中心に勉強したほうがいいと思います。

## 後輩へのアドバイス

教員は、未来の日本を支える人間を育てるという大変責任の重たい職業であると思っています。しかし、責任が重たい分何事にも代えられないやりがいや達成感を感じることができる素晴らしい職業であるとも思っています。そのため皆さんも教員を目指していくうえで、教員という職業がどのようなものなのかを自覚して、自分が教員になった時の姿を想像し、その姿を実現できるよう試験に向けて勉強に励んでください。

## 中学校教諭（国語科）

Yさん

- ・2023年度 人文学部 日本語日本文化学科 卒業
- ・現在、岐阜県内の公立中学校で国語科教諭として活躍中

### 志望動機について

子どもたち一人一人が、心を楽しんで人生を歩んで欲しいためです。

私は中学生の時、約2年間不登校を経験しました。当時は人間関係や将来の夢、今後の人生など全てにおいて不安しかありませんでした。ですが、両親や学校の先生をはじめとする多くの方の支えによって、それらの不安は解消されていきました。中学生は多感な時期のため、さまざまな不安や悩みを抱えています。不登校の経験を生かし、生徒の悩みと一緒に解消する中で、生徒一人ひとりが心を楽しんで生きられるようにしたいと思ったため、教員を志望しました。

### 実習について

よかったことは、やはり実際の学校現場でさまざまな経験ができたことです。中学生に対して授業を行い、先生方から授業や生徒指導などの多岐にわたるご指導をいただいたことは大変貴重な経験でした。一生懸命考えた授業を、生徒が真剣な顔をしながらも楽しそうに受けてくれている時はやりがいを感じましたし、俳句に関する授業を行った後、複数の生徒が「先生！今これ作ってみたんだ！」と話に来てくれた時は、本当に嬉しかったです。また指導教員の方が、毎回放課後に指導してくださったので、授業で工夫する点、教科指導の中で生徒指導することの大切さなど、より実践的なことを学ぶことができました。

苦労したことは、予想外の質問に対する対応です。予想していなかった生徒の質問があった時、すぐに答えることができませんでした。生徒が勇気を出して質問してくれたのにも関わらず、その場で答えることができず、生徒が疑問を持ったままにしてしまったのは、申し訳なく思いました。また、その生徒の質問についてクラスで考えてみる方法もありましたが、動揺してしまい、そこまで考えられなかったことも反省しています。

よかったこと、苦労したこと、いずれもまだまだありますが、全て含めて大変充実した毎日でした。

### 採用試験・就職活動について

私は岐阜県を志望したため、3年生の11月頃から教科専門・教職教養・小論文を重点的に勉強しました。勉強方法は、教科専門では過去問や大学受験の時に使った問題集を解きながら勉強しました。教職教養は澤田先生のゼミに参加し、小論文も澤田先生にご指導をいただきました。教職教養は、初めて学ぶ且つ小論文で必要な知識ばかりのため、分からない点はすぐに先生に質問するようにしました。小論文は12月末から、週に1本のペースで書くようにしました。全体の勉強方法としては、仲間と問題を出し合うことをおすすめします。分からない所があればすぐに聞けますし、苦手な部分の覚え方を知ることのできるため、勉強の効率が上がります。

在学中にやるべきことは、同じ目標を持つ仲間を見つけることです。一人で勉強しているといずれ苦しくなりますが、同じ教師を目指す仲間、相談や愚痴を少しでも吐くだけで気持ちが楽になります。何より、一緒に頑張る仲間がいると思うだけで、勉強に対するモチベーションも上がりますし、卒業後は同業者になるので、仕事で悩んだ時に相談しやすいです。また気軽に相談できる先生がいると、人生の先輩だからこその具体的なアドバイスや、新たな気づきを与えてくださるので、相談しやすい先生を見つけることもおすすめします。

## 後輩へのアドバイス

何事にも一生懸命に取り組んでください。一生懸命に取り組んだ先で、努力が必ずしも報われるとは限りませんが、その中では多くの物を得ることができます。そして、それは誰も奪うことができない、あなただけの財産・一生の宝物になります。

これを読むあなたが卒業する時、沢山の宝物と仲間に囲まれて笑顔でいることを心から願っています。

## 中学校教諭（国語科）

Nさん

- ・ 2024 年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・ 現在、相模原市の公立中学校で国語科教諭として活躍中

### 志望動機について

中学3年のときの担任に憧れて教員を志しました。当時の担任の教師には言葉に力があり、温かさを持ち合わせていました。私も子どもたちに温かさを与えられる教員になりたい。そして、言葉の大切さ・面白さについて、国語の授業を通して、子どもたちと考えながら、一緒に学んでいきたいと考え、国語の教師を目指すことを決めました。また中学という「自分について考える時期」を教師として支えたいと考えました。

### 実習について

実習について、よかったことは、実際の学校現場に、毎日行けるということです。そして一時的に一人の教員として扱ってもらえるということです。子どもと触れあうのは学校ボランティアなどでも、できますが、毎日通うことで、子どもの小さな変化や成長に気づけたり、実際に授業をさせてもらえたりすることはとても貴重な経験でした。苦労したことは、子どもたちへの声かけの仕方です。一人一人の個性を尊重することや、その日の心の状態などを把握しながら関わることはとても大変でした。しかし仲良くなれたときや、自分の授業を面白いと言ってくれたときは、苦労を忘れるほど、とても嬉しかったです。

### 採用試験・就職活動について

採用試験については、計画的に勉強することが大切だと思います。どうしても誰かと比較してしまいがちですが、過去の自分と比較し続けて、成長していくことが合格に繋がると思いました。また面接は誰かに見てもらうのが一番、効果的です。私は教職課程センター分室の先生との面接練習を通して、実用的なアドバイスをいただき、自信を付けることができました。そして、子どもと関わる機会を増やすことも大切だと思います。それが面接のときの回答の説得力や根拠になるので、どのような形でも子どもと関わる機会を増やすことはするべきだと思います。

### 後輩へのアドバイス

多くの経験を積むことが自己形成に繋がると思っています。私自身、短期留学に行ったり、教職とは関係のないインターンシップに参加したりしました。それを通して、自分を客観視することができました。改めて教員になりたいという思いを確立できました。挑戦してみたいことに、素直に、真剣に取り組むことが、後の自分を形づくる要素となります。思い切っているいろいろなことに挑戦して、多くの経験を積んでほしいです。皆さんがより良い結果を得られることを、願っています。

## 中学校教諭（社会科）

Yさん

- ・2024年度 人文学部 歴史地理学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立中学校で社会科教諭として活躍中

### 志望動機について

はじめのうちは学校で普段接する先生方の姿を見て、「自分ならこうするな」とか「自分だったらこう声かけるのにな」と思うようになった事がきっかけです。接する相手の立場に立って物事を考えるようになり、それがいつの間にか教員という仕事への興味に変わっていきました。中学や高校で自分が困っていたとき、大変だと感じているときに親と同じくらい親身になって話を聞いてくれる大人がいるんだと感動し、そこからそういう大人に自分もなれる可能性があるのではないかと自分の将来を真剣に考え、結果教員という仕事を選びました。

### 実習について

教育実習ではとにかくいろいろな人との関わりを意識して取り組みました。自分と生徒はもちろん自分と先生方、自分と学校の職員の方など生徒の相手をする事だけが教員の仕事ではありません。その意識のおかげか実習後半にはいろんな人たちに助けをもらい、なんとか無事に3週間で終わることができました。人との関わりは意識してよかったと感じる点の一つです。

逆に授業を行うにあたって自分の知識不足は痛いほど感じました。人に教えるということは自分の理解が完璧でないといけません。実習中に勉強し直して時間がかかり割かれたと感じたので知識は一通り確認しておくの良いかもしれません。

### 採用試験・就職活動について

今教員採用試験は大きな転換期にあると思います。実施の前倒しがあり、自分もかなり追い詰められた記憶があります。また2024年実施の教採では、ある自治体では合格者の7割近くが辞退した自治体もありました。今のままの試験の枠組みがそのまま続く保証はありません。だからこそ早期からの対策を強くおすすめします。何か変更があったときにできないは言い訳にしかありません。自分の将来のために出来る事をできるときにやる事がいいと思います。そのために周りの力を借りるのもいいと思います。あとは自己分析をして自分はどう考えていてどうなりたいのかという自分自身の軸をしっかり持つておくといいと思います。

### 後輩へのアドバイス

上では偉そうなことを書きましたが、僕自身勉強はあまり得意では無く、サボり癖もかなりあります。一気に根詰めてやるから今はやらなくても大丈夫と自分に言い聞かせて思い通りにできた試しがありません。だからこそ皆さんには肩の力を抜いて勉強に取り組んでほしいなと思います。10割でずっと頑張れる人なんてそういません。6割くらいの力で毎日続ける方が僕には合ってたし意外とその方が無理なく勉強が続けられた気がします。もちろん短期集中して自分を追い込む期間は必要ですが、無理しすぎず自分とうまく付き合いながら頑張りたいと思います。皆さんの成功を心から願っています。

是非同じ教員として同じ職場で中部大卒の先生と働けることを楽しみにしています。

## 中学校教諭（数学科）

Fさん

- ・2020年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、名古屋市の公立中学校で数学科教諭として活躍中

### 志望動機について

私が教員を志望する動機は、私の人生を変えた高校の先生に影響を受けたからです。私は、高校1年の時に体調を崩し、学校へ行くことができなくなりました。2年半の休学を経て復学した時、担任の先生は高校を退学して大学へ行くことを勧めました。私は、この提案に大変驚きましたが、退学という決断とともに、人の人生に深く関わることのできる教員の仕事に魅力を強く感じました。そして、この貴重な体験を活かして、「様々な事象を多面的に捉え、柔軟な考え方ができ、多様な支援ができる教員」になりたいと考えました。

### 実習について

- ・自分のやりたかったことが叶ったこと。
- ・子どもたちと勉強したり、遊んだりできたこと。
- ・提出物や次の日の準備が多く、睡眠時間が少なくなったこと。
- ・大学で勉強した授業ができなかったこと。
- ・教員になりたいという気持ちがより強くなったこと。
- ・教員の実践的な仕事を体験することができた。

### 採用試験・就職活動について

- ・受験する自治体の過去問演習を中心に行った。問題形式に慣れることを目的としながら、間違えた問題の単元を復習していった。
- ・大学で行われている面接練習に積極的に参加し、答え方を一から学んだ。
- ・自分を振り返り、自己開示を行った。
- ・在学中には、ボランティア活動や子どもに携わる活動をして、教育に関わる知識を深めた。
- ・事前に募集要項を熟読し、特例に当たる資格等を取得した。

### 後輩へのアドバイス

学力だけでなく面接や小論文も重要になってきます。特に昨今は、人と会話する機会が少なくなっているため、面接の練習はしっかりやっておくことをお勧めします。名古屋市は、名古屋市の教育施策についての質問が多いです。なので施策とそれに対する自分の考えを持っておくと答えやすいと思います。

また受験勉強は長期間に及ぶので、モチベーションを維持できるように適度に休息をとりながら、「教員になりたい」という気持ちを持ち続けて、効率よく頑張れるとよいと思います。

同じ大学出身の教員が増えることは、親近感が湧いて私も嬉しいです。勉強は大変ですが、まわりの先生や仲間と助け合いながら、頑張ってください。

## 中学校教諭（数学科）

Iさん

- ・2021年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、岐阜県の公立中学校で数学科教諭として活躍中

### 志望動機について

中学生の頃、とにかく数学に対して苦手意識をもっていました。身近なものに関連付けて数学を面白おかしく教えてくれる恩師の授業のおかげで徐々に数学が好きになりました。そんな恩師に憧れて「この先生のような教師になりたい」「先生と一緒に働きたい」と思ったことが中学校数学の教員を目指した動機です。

### 実習について

良かったことは、実習を通して実際に児童・生徒と関わり、改めて教師になりたいと思う事ができたことです。苦勞したことは、1時間で授業を完結させることでした。大学でも短時間の模擬授業は何度も経験していましたが実際に1時間授業をすると全然時間が足りず毎回時間を超えてしまいました。

### 採用試験・就職活動について

自分の専門教科試験の対策は高校時代の参考書や問題集をひたすら解きました。また、教師を目指す仲間と一緒に過去問を解いて教え合う機会を週一回は設けていました。教職教養試験の対策は夏と春に行われる教員採用試験対策講座が最も力になったと感じます。その時のノートや資料を確認し過去問を解く勉強法を繰り返していました。また、面接担当の先生方は親身になって指導して下さいます。先生方のアドバイスやお話は面接練習はもちろん教育時事の勉強にもなるので面接練習は必ずやるべきだと思いました。

### 後輩へのアドバイス

教員採用試験の勉強をしていく中で、その内容の殆どが大学の講義で学んだことだと感じました。当たり前の事ではあると思いますが、一つ一つの講義を疎かにすることなく出席することが教員採用試験に繋がると思います。試験勉強に身が入らない方は大学の講義をきちんと受講することから始めてみるのがおすすめです。

## 中学校教諭（数学科）

Sさん

- ・ 2022年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・ 現在、愛知県の公立中学校で数学科教諭として活躍中

### 志望動機について

中学時代、不真面目だった私に対して粘り強く接してくださった先生のおかげで、自分の人生についてしっかりと考え直して進路を決めることができた。その体験から、人の人生を手助けできるという教員の魅力に気づき、教員を志した。

### 実習について

子どもたちと接したり、授業をしたりすることは非常に楽しかった。しかし、実習の記録や、学習指導案の作成といった事務的な作業に時間を取られてしまい、睡眠時間が確保できない状況が続いた。

### 採用試験・就職活動について

一次試験、二次試験に共通して言えることは、過去問で傾向を掴むこと。愛知県は傾向がはっきりしており、短時間で点数アップにつながる。一人でくじけそうなときは、友人と励まし合いながら協力して対策を行うこと。

### 後輩へのアドバイス

一緒に勉強や面接練習をして高め合える友人が一番大切です。友人同士で模擬面接を行ったりアドバイスをし合ったりして、合格を目指してください。

## 中学校教諭（数学科）

Nさん

- ・2023年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、三重県の公立中学校で数学科教諭として活躍中

### 志望動機について

高校2年生の頃、進路について考えている際に「なりたい」と思ったのが教師でした。

私は中学の時の数学の先生が大好きで、中学の頃から数学が得意でした。

高校の文理選択の際はまだ教師を目指していなかったのですが、文系を選択し、数学の先生を目指すことを一度は諦めましたが、高校の先生方から背中を押していただいたことで、中学校の数学の教員を目指そうと思いました。

### 実習について

私は中学校実習も小学校実習も母校に行きました。

#### 【中学校実習】

良かった点は、中学校はクラスが複数あるため同じ授業を何回もできるので、指導教官の先生にたくさんのアドバイスをいただいて訂正し、授業力をあげられるところです。私の学校は4クラスあるので、前のクラスで生徒たちが苦戦したところや時間がかかったところに注意して指導したり、逆に生徒たちがすぐに習得できたところはあまり時間をかけずに進めたりと何度も改善しながら授業ができました。

苦労した点は、授業の時間配分と生徒との関わり方です。指導案を用意していても思ったより時間がかかって、計画通りに進まないことが多かったです。生徒の関わり方については、大学生ということもあって生徒たちはすごく関わりに来てくれるため、生徒との距離感を保つことに苦労しました。

#### 【小学校実習】

良かった点は、とても楽しみながら実習をできたところです。中学校実習の時は初めての实習で緊張していたのですが、小学校実習では比較的のびのびできたと思っています。児童たちは毎日元気で、「遊ぼー！」と声をかけてくれたり、いろんなプレゼントをくれたりとすごく可愛くて毎日癒されました。

苦労した点は、伝え方の難しさです。算数の授業をするのにどのように伝えれば児童たちにとってわかりやすいか、興味を持ってもらえるかを考えることに苦労しました。私たちの“当たり前”は児童たちにとってはわからなかったり難しかったりするため、児童の立場になって考えることが大事だと学びました。

### 採用試験・就職活動について

私は1年生の終わり頃から教員採用試験に向けて学習を始めました。

3年生の夏にある東京アカデミーさんの講義を受けるまでは、どのように勉強したらいいのかわからなかったため、一般教養対策で苦手な理科や社会の勉強をしたり、高校数学の復習や数Ⅲの独学をしたりと勉強する習慣を1~2年生の頃はつけていました。過去問は3年生の終わり頃からやり始め、約10年分は解きました。1日の勉強時間は10時間を目標にし、前日の夜に1日の何時に何の勉強をするかを決め、25分勉強→5分休憩を繰り返し行うようにしていました。

3年生の夏の東京アカデミーさんの講座は時間が多くとても大変でしたが、教職教養の勉強の仕方やきっかけを与えてくれたと思います。

3年生の終わり頃から教職課程センター分室で面接対策をしてもらえました。私が合格できたのはここでの面接対策があったからだと確信しています。教職課程センター分室では、面接での話し方や反復練習のみならず、三重県の教員採用試験である模擬授業の練習に付き合っていたり、実習や試験の相談もたくさんさせていただいたりしました。1次試験の点数はあまりよくなかったですが、2次試験の面接で巻き返すことができました。面接対策はしっかりするべきだと思います。

### 後輩へのアドバイス

勉強をしても不安なことがいっぱいあると思います。教職課程センター分室の先生方や先輩などいろいろな人に相談したり話したりして最後まで頑張ってもらいたいと思います。また、ボランティア等もぜひ参加してみてください！私は、あつまれ！わんぱく隊というサークルと中学校での学習支援ボランティアでいろいろな経験をさせてもらいました。経験は自分の自信にもなると思います。面接で話す内容も豊富になります。大学生活内でしかできない経験もたくさんあると思います。悔いのないように頑張ってください！

## 中学校教諭（数学科）

Hさん

- ・2024年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立中学校で数学科教諭として活躍中

### 志望動機について

恩師への憧れがきっかけです。中学3年生の頃、私の努力や長所を見つけてくださった恩師のおかげで、自分に自信をもてるようになり、積極的に行動することができるようになりました。進路を考える中で、私も恩師のように、生徒に自信を与え、その成長を支えることができる数学教員になりたいと決意しました。

### 実習について

まず、よかったことは、生徒たちの笑顔を見ることができたことです。ある日、数学の問題について質問に来た生徒に対し、紙を折って視覚的に説明すると、納得してくれました。その紙を持ち帰る姿を見て、私も大きなやりがいを感じました。この出来事をきっかけに、その生徒がよく話しかけてくれるようになり、とても嬉しかったです。

一方で、苦労したのは授業づくりです。私は数学と道徳の指導案を合わせて6枚作成しました。1週間かけて何度も修正を繰り返し、時間をかけて準備した授業でしたが、実際に取り組むと思い通りにいかないこともありました。現場の先生方は毎日2~3本の授業をこなしており、その姿を見て自分の力不足を痛感しました。

### 採用試験・就職活動について

筆記試験では、教養科目、専門科目（数学）、小論文の対策を行いました。教養科目は、全国の問題が掲載された教材や東京アカデミーの講座、提供された教材を活用しました。特に全国問題集は、一緒に受験した仲間たちも「良い」と評価しており、本当におすすめです。数学の勉強は、過去問と高校時代に使用していた問題集を中心に取り組みました。また、受験しない自治体の問題にも挑戦し、幅広い問題に触れるよう意識しました。分からない問題は糸健太郎先生に質問して解決しました。小論文対策では、東京アカデミーの講座や模試に加え、大学の「キャリア開発B」という講義が特に役立ちました。この講義では小論文のテンプレートを学ぶことができ、その後はネタ集めに集中することができました。

面接対策は、主に教職課程センター分室で行いました。面接ノートを作成し、想定される質問を整理して準備を進めました。3年生の11月から週1回、4年生の5月頃からは週2回に頻度を増やし、面接直前にはほぼ毎日通いました。分室では3人の先生が手厚くサポートしてくださり、特に鈴村文子先生と古田秀人先生には大変お世話になりました。同じ先生だけでなく、異なる先生の意見も取り入れることを心がけました。また、友人と模擬面接を行い、面接官役と受験者役を交互に担当しました。この取り組みを通じて、面接官が質問しそうな内容を考えたり、仲間の良い意見を吸収したりできたため、とても効果的でした。

### 後輩へのアドバイス

何が起こるか分からないので、最後まで諦めずに頑張ってください。私自身、模試の結果があまり良くなく、不安でいっぱいでしたが、なんとか合格することができました。友人と一緒に勉強したり、面接練習をしたりすることが本当に効果的だったと実感しています。ぜひ仲間と声を掛け合いながら取り組んでみてください。皆様の合格を心から応援しています。

## 中学校教諭（理科）

Kさん

- ・2015年度 現代教育学部 児童教育学科 卒業
- ・現在、春日井市の公立中学校で理科の常勤講師として活躍中

### 中学校理科免許の取得を目指した理由

中学校理科の免許取得コースに進んだのは、免許は一つより二つ持っていた方が今後何かの役に立つだろう、最初はそんな安易な考えでした。

今振り返ると、4年間の大半は同じ中学校理科免許を取得する仲間と過ごしていました。

### 実習について

中学校実習では実験の準備などで遅くまで学校に残り、家に帰るのが10時を過ぎたこともありました。

その準備の甲斐あって授業がうまくいったときはうれしくて、やっていたよかったなど達成感を味わうことができました。中学校実習で学んだことはたくさんありますが、教師には生徒と向き合う根気強さ、生徒一人ひとりを理解しようとする必要があると感じました。

慣れないことや分からないことばかりで大変でしたが、最後はまだ終わりがたくないと思うくらい充実した3週間を過ごすことができました。実習を終えるたび、教師になりたいと改めて感じました。

### 採用試験・就職活動について

話すことは好きなので、面接よりも筆記の方が苦勞しました。繰り返し問題集を解きましたが、不安なところを残し自信を持つことができないまま、当日挑んでしまいました。

苦手なところをつぶすことから始めて、たくさん問題集を買うのではなく、ひとつに絞って何回も繰り返し行うことが大切だと感じました。

### 4年間の大学生活を振り返って

広島県から中部大学のある愛知県まで出てきました。知っている人が一人もいなくて最初は不安でしたが、そんな不安はすぐになくなるくらい素敵な友人たちと出会うことができました。

愛知県に残って教師をやろうと思った理由の一つも、素敵な人達と出会えたからです。

4年間は、本当に楽しかったです。今振り返ると、毎日ふざけて騒いで過ごした記憶しかありませんが、そんな日々がかけがえのない大切な思い出です。

### 後輩へのアドバイス

中部大学には素敵な仲間がいて、素敵な先生がたくさんいらっしゃいます。

特に中学校理科免許コースには、豊富な経験と知識のある先生方から、自分では思いつかないようなことばかりを教えていただき、楽しく、とても勉強になります。

採用試験の勉強は、焦らずに自分がやらなければと思ったときがスタートです。勉強は、仲間を見つけて一緒に取り組むといいかと思います。

あっという間の4年間なので、自分のやりたいと思ったことは、どんどんやってください。中学校理科の先生を目指すなら、中部大学がいいですよ。頑張ってください。

## 中学校教諭（英語科）

Kさん

- ・2024年度 人文学部 英語英米文化学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立中学校で英語科教諭として活躍中

### 志望動機について

私が教員を目指した大きな理由は、自分と同じような経験をしている子どもたちの力になりたいと思ったからです。小学校から高校までの自身の家庭環境は荒れており、高校で無気力になり自主退学することになりました。その後もしばらくの間、自身の部屋にひきこもるような生活が続いていましたが、そういった経験を活かせる仕事は教員だと母に諭されました。最初は、こんな自分がなれるはずないと思っていましたが、少しでも自身の経験が同じような経験をしている子どもの役に立つのなら教員になりたいと考えるようになり、教員を目指していました。

### 実習について

良かったことは、良い実習生の仲間や生徒たちに恵まれた事です。実習内容では、生徒たちが楽しそうに自分の授業を受けてくれ、授業後に面白かったと言いに来てくれた時は非常にうれしかったです。また、フリースクールに通う生徒と雑談や自身の経験を話せたことも印象的でした。特に、最終日にその生徒が信頼している先生に私の授業にもっと出席すれば良かったと言っていたと聞いたときに自身の経験が少しでも役に立てたのではないかと思うことができ、感動しました。

苦労したことは、指導教員の方にあまりよく思われていなかったことです。特に指導教員の方がベテラン場合は、大きい声を出すことや細かい礼儀に気を付けた方がいいです。

### 採用試験・就職活動について

採用試験は2次試験が一番大事なので願書の自己PR欄に面接で聞かれないことや志望動機をしっかりと書くことが重要だと思います。また、場面指導については、自分の場合はYouTubeを観て本番に臨んだが、大学で行われている場面指導の模擬にも参加すればもっとうまくできたのではないかと思います。

1次試験は、基本的に倍率が高すぎず、点数が低すぎなければ通るのである程度勉強すれば大丈夫だと思います。ただ、小論文が面接の評価が同じ場合に利用されることがあるらしいのでB評価がもらえると少し安心できると思います。自分の場合は、ネットにあった模範解答を読んで書き方の構成を参考に本番に臨んだが、実際に文字数を数えて書く練習をした方が安心できると思います。

自分は本番に時計を忘れてしまい時間が分からなかったので皆さんは気をつけてください。おそらく試験官に聞けば教えてくれると思います。

### 後輩へのアドバイス

自分は教育実習などの準備でごたごたしていて願書を出し忘れるところだったので気を付けてください。しかし、願書を遅めに出すと面接の順番も遅くなり、朝早くに試験会場に向かわなくてよくなるので朝が苦手な人や試験会場が遠くなる人にオススメです。自分の試験会場は蟹江中学校でした。

コンテンツ一覧に  
戻る

## 高等学校教諭（国語科）

〇さん

- ・ 2022 年度 人文学部 日本語日本文化学科 卒業
- ・ 現在、神奈川県内の公立高等学校で国語科教諭として活躍中

### 志望動機について

高校生のころ、家庭のことで悩んでいた時に、当時の担任の先生に相談に乗っていただいたことがきっかけです。当初は学校に行く気力を失いかけていたのですが、私のペースに合わせて根気強く悩みを聞いてくださり、自分の中で折り合いをつけることができました。高校生は家庭や進路、人間関係等様々な課題を抱えることが多いので、私も生徒の抱える課題を解決する助けとなるような教員になりたいと考え、教員を志望しました。

### 実習について

実習に行ってもよかったことは、実際に生徒の前で授業を行うことができたことです。大学では練習として模擬授業を何回か行いましたが、模擬授業はあくまで同じ大学生が相手だったので、こちらの予想と大きく違う反応や返答が返ってくることはあまりありませんでした。しかし実習では、予想とは違う反応が返ってくるが多く、模擬授業だけでは分からない生徒のリアルな様子を知ることができました。

苦労したことは、指導案作りです。2週間で研究授業を含め11回授業を行いましたが、そのうちの半分以上は各授業の指導案を作成し、担当の先生に添削していただきました。自分の至らぬ点を知ることができましたが、限られた時間の中で効率よく作成するのに少し苦労しました。

### 採用試験・就職活動について

採用試験の勉強については、とにかく「一人で何とかしようとしないう」ことを気を付けていました。特に自分が受験する自治体の情報を集めたり、小論文や面接の練習をしようとする、一人の力では限界があります。そのため、友人や先生方の力をお借りしながら勉強を進めるようにしていました。

在学中にやるべきことは、自分の専門とする教科の勉強をコツコツすることです。教育実習では実際に教壇に立って授業を行うため、直前に詰め込んだような知識ではしっかりと教えることはできないと思っています。実際に私も実習の中で知識不足を痛感した場面があったので、そうならないよう在学中に専門教科の知識を深めてほしいと思います。

### 後輩へのアドバイス

採用試験に向けての勉強や教育実習等は決して簡単なものではなく、時には心が折れそうになってしまうこともあると思います。ですがそんな時こそ、一人で何とかしようせず、周りの人に相談したり頼ったりしてみてください。思いがけない気づきがあったり、反対に自分が悩んでいる人の助けになることもあるかもしれません。ぜひ同じ目標を持った友人と助け合って頑張りたいと思います。また、試験が近づいてくると焦りや不安が増えますが、皆さんがこれまで積み重ねてきたものを見返して、自分を信じて試験に臨んでほしいです。それぞれが納得のいく結果となるように願っています。

## 高等学校教諭（理科）

Kさん

- ・2012年度 応用生物学研究科 応用生物学専攻博士前期課程 修了
- ・現在、愛知県内の私立高等学校で理科教諭として活躍中。

### 教育実習の準備について

教育実習へ行った母校は厳しい進学校であったため、教材研究に特に力を入れて行きました。また、授業進度がかなり早いことを在学時の経験上知っていたため、効率よく分かりやすい板書ができるよう板書計画を練り、事前に練習していきました。この時の経験が、現在では生徒たちに評判のいい板書作成に繋がっています。

### 教育実習で苦労したこと、頑張ったこと 現場の様子について

教員は、子供たちの見本でなければならず、服装の色やサイズ感、化粧に至るまで気を付けなければいけません。私は祖父からスーツなどを譲り受けていたため、事前打ち合わせの際に張り切って着用していったのですが・・・女性教員が男性物を着用してしまうと、ジャケットやシャツのボタンの向きなど子供たちに誤った情報を与えてしまうから気を付けるようにと注意を受けました。教員も改めてみられる職業であると実感させられました。また、私が教育実習の時期に某アイドルの選挙が話題となっていたのですが、芸能情報に全く関心がなかったため、子供たちとの日常会話で戸惑う場面が多くありました。教員は勉強だけでなく、子どもたちとのコミュニケーションも大切なので、幅広い情報をもっていなきゃいけないのだと、痛感させられました。

進路について、学校の方針とあわずすごく悩んでいる生徒が、話しやすいという点からか、実習生である私に相談してきました。私は話を聞いてあげることしかできず、大変もどかしい思いをしたことを今でも覚えています。進路担当の先生に事情をお伝えし、情報の集め方や担任の先生との連携等、実習と並行させることはとても苦しかったけれど、実習後に母校へ出かけた際、その生徒が「進路、ここにすることにしたよ。先生ありがとう！！」と笑顔で声をかけてくれ、すごく嬉しかったです。

### 採用試験について

- ・準備したこと（勉強方法や対策等）

私は、教職にしぼって就職活動をしていません。あくまでも、選択肢のひとつとして取り組んでいました。しかし、教職に進むと決めたとき常に心に留めていたのは、「この道は、誰かの生涯に深く関わる大切な、責任のある仕事だ。」ということ。自分にその覚悟があるか、ということをしつかりと考え、自分の中に教員としての目標をもっていられるよう意識して挑みました。勉強は・・・学校の教職の授業でやったことを復習したくらいだったように思います。ただ、現在の職場の入社試験の物理が全然解けず、不合格になる覚悟を決めていたことは、はっきり覚えています（笑）

- ・苦労したこと

愛知県の教員採用試験での面接は集団面接で、非常勤講師経験者の方も肩を並べて挑むため、明らかな経験値の差を痛感させられました。質問に対する回答するすべてに自身の経験を含んだ意見を述べられており、自分の未熟さ、教育現場の厳しさを感じました。

- ・試験当日について（準備すること・試験の雰囲気等）

現在の職場の面接試験を受ける際、地図を見間違い、全然違うところに向かって歩いてしまいました。結局、声をかけた近隣の方に案内していただき、何とか時間に間に合ったという経験をしました。改めて、早めに動くことの大切さを実感し、同時に、下見をしておく必要性を感じました。この経験から、いまだに行ったことのない土地への出張が入った際は、事前に下見に行くよう心掛けています。

## 今の仕事について

### ・主な業務

担任業務と分掌、コースチーフと部活動の顧問が主な業務です。採用初年度から担任をもたせてもらい、戸惑うことも多いけれど、毎日子どもたちと濃い時間を過ごしています。また分掌は、採用されてからは生徒指導部や進路指導部、教務部とさまざまな分掌を経験させてもらっています。部活動は、吹奏楽部を指導しているのですが、採用されてから立ち上げの状態だったため、とても貴重な経験をさせてもらっています。また、その分思い入れの強い業務です。昔からですが・・・部活動をしているときに一番楽しいです（笑）

### ・やりがい

やりがいは、非常にあると思います。もちろん、常に順風満帆ではなく、どちらかというといろんな紆余曲折な日々で、生徒同士のトラブルの間に入ったり、生徒と衝突したり、保護者から厳しいお声をいただいたり、時には教員間で疑心暗鬼になることもあります。人間それぞれ考え方ややり方があるから軋轢が起こることは当然なのですが、ほぼ毎日がその繰り返しのため、辛いことが多いです。でも、その子供たちが自分で進路を決め、無事に卒業していく姿を見送るときの達成感は、それまでの苦しみを凌駕するほど大きなものです。また、部活動でより濃く、長い時間を過ごした卒部生がフラッと部室に顔を出してくれる、「自分たちの自慢の部活だ」と言ってくれることが、本当に幸せです。

### ・苦勞していること

表現は良くないですが、今の子どもたちは高校生の頃の自分たちとは大きく違うように感じています。すぐ諦めたり、驚くほどマイペースだったり、後先考えられなかったりなど。教員として以前に、人としての自分の理解が及ばないところで問題が起こり、その該当生徒の話聞き、指導していかなくちゃいけないことが増えてきており、どのように話せば生徒に伝えられるのか、生徒の今後につなげていけるのかということに悩むことが多いです。

また、理科の教員は自分の専門分野に関わらず、生物、化学、物理、地学の教科を担当することもあります。自分の専門科目以外、特に私は物理の教科担当がまわってきたときは、教材研究に多くの時間をとられ、部活動の指導にもあまり行けず、苦しかったのを覚えています。

### ・今後の目標・夢

私は今、理科の教員免許しかもっていないので、将来的には複数教科の免許を取得し、いろいろな切り口で子どもたちと接していける教員になれたらなと思っています。また、自分の立ち上げた吹奏楽部の演奏を、もっともっと多くの人に聴いていただけるような活動にしていきたいです。

## 後輩へのアドバイス

教師という仕事は責任も重く大変な仕事だけれど、自分の経験を新しい世代に伝えていけるレアな体験のできる現場です。また、常に自分だけでは考えられないような事象が起こるので、落ち着く暇がなく、毎日が新鮮です。しっかりと「こんな先生になる」と目標を定め、そこに向かって諦めずに歩き続けてください。

## 高等学校教諭（理科）

Hさん

- ・2017年度 工学部 応用化学科 卒業
- ・現在、愛知県内の私立高等学校で理科の常勤講師として活躍中

### 実習について

- ・準備したこと

大学の講義で習った学習指導案の書き方や、板書計画などを復習し準備した。

- ・苦労したこと・頑張ったこと

学校ごとの指導案の書き方や、板書計画、実習先の学校にあった授業作り。部活動を手伝うときのできない子の為の指導方法。

- ・現場の様子

私の母校が私立だったため、先生が替わってもなく、仲のよい先生と一緒に実習ができたためとても楽しかった。

- ・学んだこと

大学では学べない、教育の現場を体験することができ、生徒として学校にいることと、先生として学校にいることの違いを知ることができてよかった。

### 採用試験について

- ・採用試験で準備したこと（勉強方法や対策等）

採用試験の勉強方法は大学が募集していた東京アカデミーの夏期講座で学んだことを中心に勉強をした。

- ・採用試験で苦労したこと

試験勉強は一人であることができるのだが、面接練習は一人ではすることができないので友達と一緒にいたり、教職支援センター（現教職課程センター）に行ったりした。

- ・採用試験当日について（準備すること・試験の雰囲気等）

準備することは今まで学んだ教職のまとめを作って見直すことが大事。面接は雰囲気に飲まれて緊張しすぎないようにすること。

### 今の仕事について

- ・主な業務

- 化学基礎 化学 生物基礎 の授業
- 生徒指導部
- 部活動の顧問 放送部

- ・やりがい

毎日違う体験をすることができ、生徒のよくなった部分毎日感じられることができること。

・苦勞していること

自分は理科の教員免許を持っているのですが、専攻が化学で生物があまり得意ではないところ。

・今後の目標・夢

○理科の科目全てを教えられるようにすること。

○部活動の指導者として成長すること

○生徒指導部として威厳を持てるようにすること

### 後輩へのアドバイス

1年目で教員採用試験に受からないと社会人になったあと勉強する時間はあまりないので大学生の勉強がで  
きるうちに勉強しとこう！！

## 高等学校教諭（理科）

Mさん

- ・2017年度 工学部 応用化学科 卒業
- ・現在、愛知県内の私立高等学校で理科の常勤講師として活躍中

### 実習について

- ・準備したこと

生徒たちがわかりやすい授業をするために何通りかの授業構成を考えました。専門科目をより深く理解し、知識を増やす準備をしていました。

- ・苦勞したこと・頑張ったこと

実習は短い期間で授業数も限りがあります。授業後に空いている教室をお借りし、誰もいない教室で何十回も授業をすることで自ら経験を増やす努力をしていました。

- ・現場の様子（幼児・児童・生徒との関わり・先生との関係等）

自習期間中に少しでも生徒たちのことを知り、理解しようと思いました。なので、お昼放課中や授業後など時間がつくれそうなときは生徒たちと会話をしていました。そこで気づいたことは、生徒たちは毎日違う表情で登校していることです。何かあったのか察するためにも日々生徒たちと関わるのが大切だと思いました。

先生方とは、授業などたくさんの方にアドバイスを頂きました。それだけでなく、初めての实習経験による疲労や体調の心配をしてくれ、とても優しい言葉をかけて頂きました。

- ・学んだこと

大学の講義でたくさんを学ぶことができましたが、実習を経て1番経験になったのは、大学の講義では経験することのできない生徒たちとの関わりです。☆ 現場の様子（幼児・児童・生徒との関わり・先生との関係等）にも記載してありますが、日々生徒たちの様子を観察して何が良かったのか、体調が悪いのかなどを理解することも教員として大切なことであると実感しました。

### 採用試験について

- ・採用試験で準備したこと（勉強方法や対策等）

過去問を何度も繰り返しやり、たくさんのテキストにも目を通し学習しました。大学にはテキストもたくさん取り揃えており、何度も活用させてもらいました。

- ・採用試験で苦勞したこと

専門科目や教職教養はとても範囲が広いので、より深く理解するために時間をかけて学習していました。大学では過去の出題傾向などを教えて頂き、たくさん相談にのって してもらいました。

- ・採用試験当日について（準備すること・試験の雰囲気等）

とても緊張しましたが、今まで支えてくださった大学の方々、実習でお世話になった方々の優しい言葉や応援の言葉などを思い出し、緊張を和らげていました。体調管理もしっかりと整え、落ち着いた気持ちで採用試験に臨みました。

## 今の仕事について

### ・主な業務

副担任やその他部活動の副顧問をしています。

### ・やりがい

生徒たちの明るい笑顔や、生徒たちが授業を通して理解をする。また、授業後に質問をしてくる生徒に教えたとき「ありがとうございます。」などと、学校内での生活や学習などで成長していく姿を見たときとてもやりがいを感じます。

### ・苦勞していること

授業づくりなどで悩むときもありますが、大学で学んだことを思い出し、日々成長しようと努力しています。

### ・今後の目標・夢

先輩の先生方の姿を見ながら仕事をしている中で、私自身学ぶことがたくさんあるので、もっと成長したいと思っています。現在の夢は、生徒たち・先生方に頼もしいと思ってもらえる様な先生になることです。

## 後輩へのアドバイス

夢や学ぶことを諦めないことです。

## 高等学校教諭（理科）

Kさん

- ・ 2022年度 応用生物学部 食品栄養科学科 卒業
- ・ 現在、静岡県内の公立高等学校で理科教諭として活躍中

### 志望動機について

私が教員を志望した理由は、高校生の頃に3年間担任として、化学の教員として指導していただいた先生に強く憧れたからです。その先生の授業はとても分かりやすだけでなく、生徒が化学に対して興味を持つ工夫が沢山されていて、学ぶことが楽しくなり、教えてあげる立場になりたいとまで思わせてくれました。また、人間関係で学校を休みがちだった私に対し、常に寄り添い、支えてくれました。私もその先生のように、生徒を大切に想い、生徒の「生き方」に携われる教員になりたいと思ったことが志望した理由です。

### 実習について

良かったことは、現職の先生方のスキルを間近で体験できたことです。先生方は工夫に工夫を重ねて日々教育をされています。実習に行った際にはそのような工夫を少しでも盗み取り、自分のものにできるよう頑張ってください。

事前面談で伝えられていた範囲に到達していないからそれよりも前の範囲を授業してほしいと実習が始まってから言われ、授業準備を最初から作り直したことが一番大変でした。このような急な変更に対応できるよう、広く授業準備をしておくことをお勧めします。

### 採用試験・就職活動について

採用試験を受けるにあたって大切なことは、出題傾向を把握した上で勉強することだと私は考えます。受験する自治体によって出題傾向は様々ですし、その出題傾向をよっぽど外してきません。まずは教職支援センターに足を運び、受験する自治体の過去問を借り、傾向を知ることが合格への第一歩です。受験期は焦りと不安でどんどん憂鬱になっていくので、定期的に勉強する場所を変えることにより、無理矢理やる気を起こしていました。スタバの窓際の席での朝勉強はとても清々しいのでオススメです！

### 後輩へのアドバイス

何よりも大切なことは、共に目標に向かって頑張る仲間を作ることだと思います。テストの点数で競ったり、教員採用試験についての情報を交換し合ったり、励まし合うことができる仲間の存在は私にとって果てしなく大きな存在でした。

これを読んでいる受験生の方々全員の合格を祈っています。

## 高等学校教諭（工業科）

Sさん

- ・2015年度 工学部 機械工学科 卒業
- ・現在、石川県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 社会人としての経験をもとに

将来、教員になりたいと考えていましたが、家庭の事情もあり一度は大学進学をあきらめ、一般企業に就職をしました。

その後約5年間、業務や社内教育を通して、社会人としての厳しさや組織内における「人づくり」を体感しました。

この経験から、「ものづくり」を進めるにはまず、人を育てることであると考え、今後の自分の人生を教育者として志しました。

### 中部大学での経験を経て

しばらく勉強から遠ざかっていたため、中部大学進学後は授業についていこうと必死でした。

学校生活では同級生との年齢の差もあり、なかなか友人はできませんでした。授業や教職課程、卒業研究を通して、卒業する頃には多くの仲間にも恵まれました。

また、周囲からのサポート、教職の先生や教職支援センターの方々のご指導のおかげで、最後まで諦めることなく教員の夢を叶えることが出来ました。

4年間を振り返ると、中部大学に来て本当によかったなと思います。

### 実習について

実習前に練習したのは、板書についてです。大学の講義室を借りて練習をしました。

実習での授業は歯車の授業だったので、大学の実習室にあった歯車模型を借りて実習で使いました。生徒たちはとても興味深く授業を聞いてくれました。

実習中は卓球部の部活動に加わり、主将と話し合いをしたり積極的に関わりました。顧問の先生から「部活の雰囲気はよくなった」と言われたときはうれしかったです。

実習生の立場でどこまで踏み込んでいいのかということは、とても悩みました。

工業高校では、様々な資格の取得を目指し、まじめに取り組んでいる生徒が多いです。先生方は、複数の授業や実習をするので、教員間での連携が欠かせないと感じました。

生徒は一人ひとり個性があり、同じ言葉を投げかけても受け取り方が違います。生徒に合わせた教育・指導が必要であり、生徒と目線を合わせ、個性を理解することが大切だということ学びました。

### 教員採用試験について

石川県の試験は総合教養（一般・教職教養）よりも教科専門の方が配点が多いため、教科専門を中心に勉強をしました。

受験する都道府県によって傾向が違うので、それぞれに合った対策を立てるといいと思います。

実技や模擬授業のように当日まで課題が分からない問題は、過去の課題を完璧にこなせるまで何度も練習をしましたが、不安もありました。そんなとき、教育実習先の先生からアドバイスをいただき、とても参考になりました。先生からは、積極的にアドバイスをもらいましょう。

試験は独特の緊張感があります。試験時間が短く、頭をフル回転させたので想像以上にハードでした。体調は万全にして臨んでください。

#### **今後の目標・夢**

企業で求められる技能、知識、意識を備えた生徒を社会に送り出し、石川県や日本のものづくりの発展に寄与することが目標です。

そのために情熱と信念をもって生徒と関わっていきます。

#### **後輩へのアドバイス**

教員を志す夢と希望を絶やさず、大学で多くを学んでください。

教職の先生や教職支援センターの方々には真摯に対応していただけるので、少しでも不安なことは何でも相談しましょう。

皆さんの活躍を期待しています！

## 高等学校教諭（工業科）

〇さん

- ・2019年度 工学部 都市建設工学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

現在、建設業界は高齢化が進むとともに、人手不足が問題となっているため、将来の技術者を育てたい、と感じたため。

### 実習について

生徒たちが明るく積極的に授業に参加してくれることから、授業中にグループワークを行う時は全員が積極的に参加をしてくれ、発表して欲しい場面では手を挙げて積極的に参加してくれたため、授業の展開がしやすかったです。

しかし、生徒と触れ合う時間が週2時間の授業と朝帰りのSHRのみだったことから、生徒の名前と顔を一致させるのが大変でした。

### 採用試験・就職活動について

専門教養や一般教養に関しては、ある程度今まで行ってきたことなので理解しやすいが、教職教養は初めて触れることが多いことから、理解するに時間がかかるかと思うので諦めずに一つ一つ苦手分野を減らしていくため、早め早めで勉強をしていくといいと思います。

### 後輩へのアドバイス

早い時期から勉強を始め、周りが就職先が決まっていくなか、不安な気持ちが強くなる時もあると思いますが、自分のペースで諦めずに最後まで頑張ってください。

## 高等学校教諭（工業科）

Mさん

- ・2019年度 工学部 応用化学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

高校のとき、進路や友人、家族関係でたくさん悩んでいた自分に優しく寄り添い、話を聞き、助言をしてくれた先生方に憧れを抱いたことがきっかけです。

### 実習について

教育実習に行ってもよかったことは、教員の生徒指導が間近で見られることです。学習指導や業後の個別指導、部活動指導を見学し、また実際に自分でも指導することができたのでとても貴重な体験になりました。苦労したことは、やはり授業づくりです。担当した教科が、高校生のときにはなかった教科で不安でしたが、指導教員の先生にノートづくりや板書の仕方、授業内容で教えるべき内容を丁寧に指導して下さったおかげで研究授業を楽しく行うことができました。

### 採用試験・就職活動について

参考書を一通り勉強したら、片っ端から問題集を解きまくり、自分の苦手な分野を探しました。そしてそこを重点的に復習し、苦手がなくなるまで問題を解き続けました。

教科の勉強ですが、はっきり言って「工業」を専門に取り扱っている参考書、問題集はないです。工業高校出身の人は、高校生の時に学んだことを復習することをお勧めします。

愛知県自治センターで採用試験の過去問が閲覧、コピー（有料）できるので、工業で試験を受ける人は一度見てみるといいかもしれません。

### 後輩へのアドバイス

自分のペースで教員採用試験に向け、勉強を頑張ってくださいと言いたいですが、6~7月になると試験対策も大詰めを迎え、さらに周りの友達が内定をもらったと言い、めちゃくちゃ焦るかもしれません。正直、焦りました。

そんな時は自分自身に「人は人、自分は自分」と何度も言い聞かせましょう。試験当日は肩の力を抜き、リラックスして、「採用試験に落ちても命まではとられない」ぐらいの気持ちで臨んでください。それでは健闘を祈ります。

## 高等学校教諭（工業科）

Mさん

- ・ 2020年度 工学部 応用化学科 卒業
- ・ 現在、三重県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

私は中学生の頃に授業妨害をしている同級生へ注意したことで、いじめを受けたことがあります。一時は学校を居づらい場所と感じていましたが、友人や翌年の二年生で担任だった先生の「生徒と共に歩む指導」に救われました。これからは私が教員として、生徒と共に歩んでいきたいです。

また高校卒業が近づいた頃、私は将来についてイメージできていませんでした。そこで三年間担任をしていただいた先生にお話したところ、大学で学び教員になるという選択肢が得られ、教職課程で学んでいくうちにその面白さにひかれたからです。

### 実習について

教育実習は母校でさせていただきました。大学生ではありますが、実習中は一人の教員(大人)です。実習中は終始気が抜けず緊張しますが、終わってみればあっという間で、とても貴重な経験でした。

研究授業の準備は大変ですが、余裕があれば多くの先生や他の実習生の授業を観察させてもらおうと、見えてくるものがあるかもしれません。授業以外でも学ぶことがたくさんあります。

結局一番大変なのは教育実習記録です。しっかり観察したことや体験したことをメモしておき、コツコツと記録するのがよいと思います。

### 採用試験・就職活動について

教職課程でお世話になった先生や高校での担任の先生を頼って、勉強していました。

面接や集団討論、模擬授業は練習しないとどうにもなりません。先生や家族、共に教員を目指している学生を頼って、いっぱい練習しておくことをお勧めします。

### 後輩へのアドバイス

教育実習、教員採用選考試験に限ったことではないですが、他人から評価を受ける時は誰でも緊張します。

自分のできる範囲で準備したらあとは楽しみましょう。

## 高等学校教諭（工業科）

Hさん

- ・2020年度 工学部 応用化学科 卒業
- ・現在、三重県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

私は元々、エンジニア志望であったが、三重県の工業化学科の職員の高齢化、後継者不足を知ったのが教員を志したきっかけである。そして担任であった熱意ある素晴らしい先生の影響を大きく受け、次第に教員志望の意思が醸成されていった。

一度は社会に技術者として経験を積んでから教員になろうと考えていたが、少子化の影響などにより採用枠そのものが減少傾向にあるため、大学卒業後すぐ教職に就こうと決心した。

### 実習について

まず初めに、純粋に生徒達から先生と呼ばれるのは嬉しかった。その過程で教員としての責任感や使命感というものが強くなっていった。

一番苦労したことは、授業のペース配分である。50分の限られた授業時間をどう分けるのか初めは戸惑った。板書に集中しすぎるあまり間が悪くなったりしたので、最後のほうが少し詰め込む形になってしまった。

授業自体は経験を積んで行くしかないが、大学で最低限の板書練習をしておいてよかったと思う。

### 採用試験・就職活動について

まず志望する自治体の採用試験について、詳しく分析することから始めた。試験方法や出題傾向、出題の意図などを事細かく調べ上げ、他県との違いなどを比較した。一般・教職教養は全都道府県の過去問集を解いて対応した。専門科目は工業化学についての過去問が少ないため、市販の化学のテキストや他県の過去問で対策した。一次試験は点数を取れば、ほぼ通るので二次試験対策に時間をかけた。論作文は過去3年分書いて教職の先生に見てもらい、傾向や出題の意図を掴んだ。面接はノートを作り、問いに対する自分の意見と補足情報を書き込んでいった。基本的には講師経験者と比較されるため、何事も徹底的にやるべきである。

### 後輩へのアドバイス

教職に関する月刊誌や色々な書籍を読みあさり、とにかく情報を集めることを意識した。そして教育に関するニュースや出来事について常に意識して考えて、自分なりの考えを持つようにすると面接や実習などのときに、すっと答えられると思う。自分なりの教育観を作り上げていって、教職に就いた際に、個性を発揮して欲しいと思う。そして採用試験を一発合格したときはこれ以上ないくらい感激した。

教職課程にしかわからない辛さはあるが、それ以上に教職課程並びに教員しか知らない幸福感や達成感もあることを忘れてないで、頑張ってもらいたい。

## 高等学校教諭（工業科）

Kさん

- ・2021年度 工学部 機械工学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

新たな時代を担う次世代の人材を育成して、工業高校や企業の在り方を変えてみたいと思ったからです。

### 実習について

生徒たちとのコミュニケーションは難しいと感じました。授業外では気やすく話せる生徒でも授業中では消極的であったり、顔を逸らされることがあるので戸惑いました。

基本的にはどんなことも楽しくできました。

### 採用試験・就職活動について

自分が受験した工業は書店にもネットにも教員採用試験用の問題集などがありませんでした。なので合格した先輩や、大学・母校の先生方から情報を頂いて、問題集を買って勉強しました。受験する科目の高校生向け標準問題集や就職問題集などがあると思うので一度調べてみるといいと思います。

### 後輩へのアドバイス

4年生になると教育実習があり、その前後に就活や教員採用試験があるので実習・採用試験・テストなどで早め早めの準備が必要になってきます。あっという間に時間は過ぎてしまうので学年関係なく、気付いたときに動くといいと思います。

あとは持てるツテは全て使ってください。大学の先生・母校の先生・友達・知り合いなど頼れる人は全て頼ると良いと思います。

## 高等学校教諭（工業科）

Uさん

- ・2023年度 工学部 応用化学科 卒業
- ・現在、愛知県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

生徒と楽しそうに話す先生方の姿を見て教員という仕事に興味を持ち、進路相談等で将来について話していく中で、教員になりたいと思うようになりました。教育実習後はさらにその気持ちが強くなりました。

### 実習について

事前打ち合わせで、授業範囲や使用できる機器、生徒の雰囲気等を聞いておいたことで、準備をしっかりとすることができ、落ち着いて授業にのぞむことができました。模擬授業もたくさんしておくといいと思います。

大学生ではありますが、生徒から先生と呼ばれた瞬間はとても嬉しく今でも印象に残っています。

これから実習に行く方は不安などあると思いますが、緊張しすぎず、準備をしっかりとって有意義な時間を過ごして欲しいです。

### 採用試験・就職活動について

採用試験勉強は3年生の10月頃に始めました。教職の先生に勉強会を開いて頂き参加しましたが、この時点では全く勉強してなく、重要語句も全く分かっていなくてびっくりされるレベルでした。

おすすめの勉強方法はとにかく過去問を解くことです。教職教養、一般教養は全国の過去問を数年分行いました。同じような問題が出たり、分からない語句等を重点的に勉強出来ます。専門教科は工業の化学科だったため過去問が少なく、問題集もないため全国の自治体から取り寄せました。

小論文は6回練習、集団討論、面接はぶっつけ本番でいきました。これは真似せずもっと対策した方がいいと思います。

### 後輩へのアドバイス

一般教養、教職教養は教科にもよりますが、6~7割とれば1次突破できます。教養の勉強はほどほどで、専門教科や小論文、面接の練習に力を入れるといいと思います。

また可能であれば本命の前に他県で受験し、試験の雰囲気に慣れておくといいと思います。

## 高等学校教諭（工業科）

Kさん

- ・2024年度 工学部 電気電子システム工学科 卒業
- ・現在、三重県の公立高等学校で工業科教諭として活躍中

### 志望動機について

母と姉が教員だったため、軽い気持ちで教職課程を受講しました。教職課程を続けていく上で、教員という職業に興味・関心が沸き、目指すことになりました。教育実習次第では、教員にならないことも考えていましたが、実習での2週間が楽しく、教員になりたい気持ちが強くなりました。

### 実習について

私は普通科出身だったため、工業高校で実習を行うことは、とても緊張しました。事前打ち合わせで、担当の指導員や生徒の雰囲気を確認することができたため、実習は落ち着いて望めました。授業は、1年生に3回と2年生に3回の計6回をさせていただきました。模擬授業ではパワポを使用して、練習しましたが、実際に生徒を前で授業を行うと、練習通りにいかないことに苦労しました。模擬授業では、板書での練習をするべきだったと後悔しました。授業準備等で忙しい2週間でしたか、貴重な経験ができ、楽しい教育実習でした。

### 採用試験・就職活動について

私は、企業への就職活動は行わず、採用試験一筋で取り組みました。本気で対策をし始めたのは、3年生終わりの春休みだったため、採用試験に絶望していました。しかし、内定先がなかったこともあり、全力で勉強しました。また、私の採用試験対策のスタートが遅かったこともあり、教職の先生が行っている勉強会や面接対策には参加しなかったです。今参加しても、ついていけないと感じたからです。

アドバイスとして、教職の先生方はとても優しいので、やる気さえあれば、時期は遅くても勉強会には参加すべきです。また、対策として過去問は必ず解くべきで、今すぐに取りに行きましょう！一般教養・教職教養も大事ですが、配点の高い専門教科を集中して取り組んでください。

### 後輩へのアドバイス

採用試験当日は、忘れ物には気を付けましょう。私は時計を忘れ、小論文では汗まみれになりました。また、教育実習での2週間もとても重要です。採用試験が早まったこともあり、担当の指導員やお世話になった先生に、試験対策・面接対策のアドバイスをお願いしましょう。

1次試験の筆記が上手くいなくても、2次試験の一番配点が高い面接で、一発逆転が狙えます！私は、面接で合格を勝ち取りました。

## 高等学校教諭（農業科）

Mさん

- ・2018年度 応用生物学部 環境生物科学科 卒業
- ・現在、岐阜県内の公立高等学校で農業科教諭として活躍中

### 志望動機について

私は身内に教員をしている者が何人かいるため、将来は教員になろうと考えていました。ほかの同級生より教員を身近に知っていたことから、学生からの目線で描く教員像よりも、深く教員という人間を知っているつもりでいました。それは、一般的な学生が考える理想的な、輝かしい教員像ではなく、いわゆる教員が「ブラック」と言われるような、現実味を帯びた面です。本来ならそんな面を熟知していて、教員になりたいとは到底思えません。しかし私は、そんな教員の過酷な毎日以上に、生徒と共に過ごす時間が魅力的に感じました。そんな強い憧れがあったからこそ、本気で教員になりたいと思えました。

### 実習について

母校は普通科高校でしたので、違う学校で教育実習を受けました。初めは母校に戻って、思い出に浸りたいとも思いましたが、自分の目指す分野の学校に伺った方が良いと思い、そうしました。高校教員を志望する学生の皆さんは、2週間の実習期間になると思います。2週間の中で与えられる授業数は、学校によってさまざまだと思いますが、実習前の準備はだれしにも共通して大切です。私は実習開始の2週間前から、指導案の作成や模擬授業を行っていました。ただ、教員採用試験も近いため、計画的な準備が必要です。準備のおかげもあってか、最後の授業では先生からもお褒めの言葉をいただき、満足のいく授業ができたと思います。

### 採用試験・就職活動について

勉強の仕方は人それぞれだと思いますが、私は採用試験当日までのスケジュールを立てて勉強していました。教員採用試験では、膨大な量の知識が問われます。そのため、自分の自治体の出題傾向をつかみ、苦手な分野を集中的に勉強するなどして、計画的に勉強を進めるのが良いかと思います。私は採用試験の年度が始まってから、カレンダーに大きな字でその月にやることを書き、できたら○を書いていくというようにして、自分の努力が目に見えるようにしていました。そうすることで、採用試験当日も自信をもって望むことができました。

### 後輩へのアドバイス

何がやりたいかわからない、とりあえず就職する。そんな風潮がある中で、教員になりたいと思ってこのページを見ているあなたは、しつかりと自分の将来像を描けていると思います。教員という職種は、就活生全体からすればマイノリティーではあると思いますが、周りに流されず頑張してほしいと思います。

## 高等学校教諭（農業科）

Hさん

- ・ 2022年度 応用生物学部 環境生物科学科 卒業
- ・ 現在、岐阜県内の公立高等学校で農業科教諭として活躍中

### 志望動機について

高校進学をきっかけに農業と出会い、農業の魅力や可能性に気づいたからです。農業という一つの産業を通じて地域社会と連携する様々な活動の中で、農業の楽しさや難しさを実感しました。また、海外実習に参加し海外の農業を肌で感じたことで、農業という一つの産業が世界を繋いでいることに感銘を受けました。この経験は、自身の地元である可児市や岐阜県の農業の未来を今以上に発展させたいという想いを強く醸成させ、ふるさと岐阜の農業の発展に尽力したいという想いを強く抱きました。そのためには、教育が不可欠であり農業の学びを通じた教育活動をしていくために、教員を志望しました。

### 実習について

高校農業は「農業」という一つのくくりであるため、自分の専門分野がある場合でも、必ずしもその分野・学科で教育実習をさせて戴けるとは限りません。私の場合は、自分の専門分野である「草花」で教育実習をさせて戴けましたが、実習校の状況等により配属学科や学級が自分の専門外の分野になる可能性があります。そのため、教育実習に行く前に農業全般の知識・技術を習得しておくのが良いです。また、農業は教科書の知識だけで、授業は全く成立しません。そのため、地元や地域の農業、あるいは世界の農業、さらには先人たちの知恵を知識として取り入れ授業を通じて生徒にアウトプットすることが重要です。そうすれば、自身の授業を通して自ずと農業の素晴らしさやおもしろさに魅了される生徒が増えていくのではないかと思います。そのためには、実習期間のみならず普段から教材研究に徹し、自らを研磨し続けてください。

また、生徒たちとの関わりは本当にかげがえのない時間です。一瞬一瞬を大切に有意義な2週間にしてほしいと思います。

### 採用試験・就職活動について

教員採用試験の勉強を始めたのは3年生の夏休みからでした。東京アカデミーさん主催の夏季集中講座に参加し、採用試験への道のりや勉強方法等、あらゆる視点からご指導戴きました。それから、澤田先生や田川先生の教職ゼミに参加し、一次試験を突破するためのノウハウを徹底的にご指導戴きました。勉強方法としては、過去問を入手し自分が受験する自治体の出題傾向を掴むことが最も重要です。教職教養については、全国の問題を過去3年分全てやりこみました。自治体あるいは年度によって出題方法が全く異なるため、様々な形式の問題に対応できるよう備えておく必要があります。専門科目については、農業技術検定2級の問題集と過去5年分の過去問を繰り返し解き、岐阜県の出題形式や傾向を隈なく分析しました。小論文については、一つの題目を納得のいくものが書けるまで何度も繰り返し挑戦しました。面接については現代教育学部にある教育実習センターが実施する面接指導に参加させて戴きました。同じ目標を持った現代教育学部の皆様とともに学び合うことは、教育の捉え方や考え方が広がるため、とても良い刺激になっていました。ぜひ、自ら参加を志願して下さい。

## 後輩へのアドバイス

「教師になりたい」ではなく「教師になる」。一つの意識の違いで、自分自身の「学び」に向き合う姿勢が大きく変化します。忍耐強く、素直且つ謙虚に前だけを向いて学び続けてみてください。自分自身を裏切らない努力の姿勢は自らが想い描く結果として現れます。

また、あなたの周りには我々の強い意志を真っ向から受け止め、支え続けて下さる素敵な先生方がたくさん見えます。さらに同じ目標に向かって切磋琢磨できる仲間も大勢います。このような出会いや経験を一期一会だと考えて取り組んでみてください。

## 高等学校教諭（農業科）

Iさん

- ・2024年度 応用生物学部 環境生物科学科 卒業
- ・現在、岐阜県内の公立高等学校で農業科教諭として活躍中

### 志望動機について

志望理由は2つあります。農業の担い手を育てること、将来をたくましく生きる生徒を育成することです。現在、農業をしたいと思う担い手が減少する中、農業の担い手を育成するために、農業の魅力を伝えること、農業の必要性を生徒自身に考えさせることで、農業に関わる人材を増やしたいと考えています。社会が複雑化するにともなって、生徒の悩みも多様化すると推測しました。将来をたくましく生きる生徒を育成するために、自己理解や他者理解を深める授業をしたいと考えています。生徒と一緒に農業や自己の悩みを考え、生徒自身が課題に気づき、仲間と解決する時間を学校生活の中で作りたいと思っています。

### 実習について

実際に生徒と一緒に授業や実習、会話をすることが本当に楽しかったです。学習指導では、大学の模擬授業とは違い、適宜細かく指示を出さなければならないことや、教科書以外の情報（導入部分で学校周辺の写真を提示したり最近のニュースを話題に出したりすること）に興味を持つため、学習することが日常的にどのように活かされているのか、生徒自身に気づきを与えながら授業展開をする必要があることを学びました。生徒指導では、コミュニケーションをSHRや掃除の時間、授業や実習を通して自分から話しかけることを意識して実践することができました。実習を経て、教員と生徒、生徒同士が信頼関係を築いているからこそ、学習指導や生徒指導が成り立っていることを実感することができた、貴重な体験でした。

### 採用試験・就職活動について

私は一つの県の教員採用試験を受けました。専門教養（農業）では、農業技術検定の3級と2級を解きました。教員採用試験を受ける県の過去問を、試験3ヶ月から5ヶ月前くらいから解き始めました。過去問から同じ問題は出る確率は少ないため、農業の知識を学生生活の中で身につけると良いと思います。教職教養では、教職教養の先生を頼りまして、ゼミに参加しながら全国の採用試験の過去問を解きました。私の場合は、一人で問題を解こうとしても、問題理解ができなため、始めに、問題が何を言っているのか、先生に解説していただきました。その上で問題を解きました。先生方には、大変お世話になりました。

### 後輩へのアドバイス

私は、心身の体調と息抜きに心がけました。学校に行った日は講義が終わった後に自習を行い、帰宅するときにリフレッシュなどをすることで、メンタルに気を配りました。また、一人で勉強する時間と友達と勉強する時間を設けて、悩みや焦りを共有しながら一緒に勉強していました。勉強するときと休養するときの切り替えを意識しました。3食食事を摂ることや、睡眠時間を確保することも大事であると、そのうち気づきました。一人で勉強するには問題理解ができなかったため、先生方や友達を頼りました。一人で追い込み過ぎず、自分のことを見てくれる人を増やして、周りを頼りながら進めてほしいです。

コンテンツ一覧に  
戻る

## 特別支援学校教諭

Yさん

- ・2015年度 現代教育学部 児童教育学科（現 現代教育学科） 卒業
- ・現在、名古屋市の公立学校で特別支援学校教諭として活躍中。

### 教員採用試験で準備したこと（勉強方法や対策等）

まずは、苦手な面接練習から始めて、面接指導の先生にご指導をいただきながら、とにかく面接に慣れることに努めました。具体的には、答えられる質問の練習ももちろんですが、答えが分からない質問に対して分からないと答える練習もしました。

筆記試験の対策は、友達と大学の図書館で勉強しました。家よりも大学で勉強した方が、環境的にわたしに合っていました。友達との勉強では、スマホを友達と交換し、誘惑や眠気などに負けないよう、助け合いました。また、小論文の練習は模試で行いました。その他はゼミの先生や学科の先生に添削をお願いしました。

苦勞したことは、一度勉強した内容が、時間の経過とともに忘れてしまう点です。覚えることがたくさんあり、勉強した内容を復習したり、新しいことを覚えたりと、自分との戦いでした。だからこそ、同じ筆記試験の内容を2,3回解いたり、同じ内容の面接練習を行いました。

### 教員採用試験当日について（準備したこと・試験について）

服装は試験の際はスーツで、とにかく暑いので、水分補給は必須です。室内では冷房が効いていたりもするので、タオルなど体温調節ができるように準備しました。

試験によっては待ち時間も結構あるので、参考書や自分でまとめたノートなどを持っていくことがオススメです。

### 特別支援学校教育実習について

準備としては、まずは実習をさせていただく学校の先生や児童生徒に名前を覚えてもらうために、名札を作りました。

実習で苦勞した点は、自分が今まで教育を受けてきた授業とは異なる勉強方法や内容なので、イメージしながら授業を進めたり、教材を作成したことです。他には、児童生徒の内面を知りたくても見えない部分など、気持ちに寄り添う難しさを学びました。

教材作りは苦勞しましたが、力を入れたことでもあります。視覚的に分かりやすくすることを意識して作りました。教材もまた、授業で児童生徒から関心を持ってもらえるか、教育的効果があったかなど、とても難しく感じました。

「なに」を大事にするかを念頭に置いた授業作りが大切ということをお勉強させていただき、この教育実習が今の自分にとって、よい経験となっています。「百聞は一見に如かず」の言葉のとおり、机上で学んだことを想像するだけでなく、実際に実習で体験できたことは、とてもよかったです。

特別支援学校は、特に教師間の連携が強いと感じました。だからこそ挨拶や思いやりが大切で、早め早めの準備が求められることを知りました。そんな先生だからこそ、児童生徒のよき模範であり、理解者となっていると想いました。

## 後輩へのアドバイス

教員採用試験の面接でのことです。わたしは面接官の質問にすべて答えることができませんでした。いくら練習をしても、面接の場では頭が真っ白になったからです。そんな状況だったので、分からないことは素直に分からないと答えました。その場の嘘やアドリブでごまかすのではなく、素直な気持ちが通じたのかもしれない。

それから、実習や教員採用試験など、情報収集は大切です。先輩や先生方から学べることは、たくさんあります。

## 今後の目標・夢

これからの大きな目標としては、特別支援教育に携わり、優しく、芯のある、人になることです。

他には名古屋市の特別支援教育に貢献し、障害のある人、そうでない人どちらも負い目を感じずに生きていける社会の確立に少しでも力を注げられたらいいなと思っています。

児童生徒にも、大きい小さいは関係なく、夢や目標を持って生きていってほしいと伝えていきたいです。

## 特別支援学校教諭

Kさん

- ・2019年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、豊橋市の公立学校で特別支援学校教諭として活躍中

### 志望動機について

私の従弟には障害があります。従弟が小学校に上がる時、障害のある子どもが学校に行く意味があるのか疑問に思いました。

しかし、学校に行くようになると、身近なことやコミュニケーションなど様々な面で成長を感じました。そこで、私自身も、障害のある子をそばで支え、成長の手助けをしたいと思い特別支援学校の教員を目指しました。

### 実習について

(小学校 2年生)

私が実習を行った小学校は外国人児童が多数在籍する学校でした。

私は研究授業で国語を行ったのですが、日本語が難しい外国人児童にも参加してもらえるようにするにはどうしたら良いのか苦労しました。

(特別支援学校 中学部3年 重複クラス)

私は知的障害の子どもたちが在籍する特別支援学校で実習を行いました。

子どもたち一人一人特性が異なるので、どう接すればいいのか戸惑ってしまいました。しかし、実習の後半には給食を私からでも食べてくれるなど、進歩がありうれしかったです。

また、子どもたちを褒めるときや喜びを伝えるときなどは自分が思っているよりもオーバーに表現した方が伝わるということがわかりました。

### 採用試験・就職活動について

教員採用試験の勉強の基礎は学校で開かれている東京アカデミーの講座で学びました。

家では一つの参考書を最低3回は解くようにして勉強をしました。

また、在学中には放課後等デイサービスでアルバイトをし、障害の子とのふれあいの機会をつくるようにしていました。

そのことで採用試験の面接でも話せることが増え良かったです。

### 後輩へのアドバイス

教員採用試験は勉強の期間、一次試験、二次試験へと続き、4年生の秋までかかる長い戦いです。

勉強中には嫌になることもあると思いますが、実習で出会った子どもたちの姿を思い出して頑張ってください。

あまり、思い詰めず、適度な休憩も大切にするといいと思います。

## 特別支援学校教諭

Fさん

- ・2019年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、小牧市の公立学校で特別支援学校教諭として活躍中

### 志望動機について

両親が教育に携わる職業に就いていたため、幼少期から教員という職業に興味を持ち始めました。そんな中、小学校4年生の頃に、特別支援学級の子と仲良くなりました。その子と同じ時を過ごす中で、その子の生きづらさや得意なことを知りました。得意なことを生かして、生きづらさを解消できないかと考えるようになり、特別支援教育に携わる職業に就きたいという思いが芽生えました。大学に進学し、インターンシップや実習先、放課後等デイサービスのアルバイトで出会った特別な支援を必要とする子どもたちと関わる中で、より明確に特別支援に携わる職に就きたいという思いが強くなりました。

### 実習について

小学校の教育実習では、2年生の担当をさせていただきました。特別支援学校の教育実習では、小学部4年生の担当をさせていただきました。クラスは3・4・5・6年生7人で教育課程ⅡとⅢの児童が在籍する複式学級でした。どちらの実習も、先生方や子どもたちからたくさん学ぶことができ、毎日が学びの連続でした。上手い出来ないことももちろんありましたが、先生や子どもたちにたくさん助けられました。指導教官の先生の「私も、一日として上手いって日はないよ。」「失敗しない人なんていないよ。」という言葉や、子どもたちの「先生ー！！」と話しかけてくれる笑顔のおかげで、実りのある実習となりました。

### 採用試験・就職活動について

就職活動が終わった今、より改良の余地があったのではと振り返ることもあります。そのため、全て完璧に対策できたわけではないため分りませんが、自分に合った対策をできたことは良かったと思っています。一番大切にしたことは、先輩や先生方、同期の仲間と話しをしたり聞いたりして得た多くの対策の仕方を、自分に合わせて改良してアプローチすることということです。人の成功体験を真似することもたしかに大切ですが、迷いや悩みを持ちながら自分がしっかり納得できるような対策を心懸け、自分らしい教員採用試験に挑むことができました。周りの助けのおかげです。教員採用試験がゴールではなく、今後の自分のためになる対策をすることができました。

### 後輩へのアドバイス

大学生活の4年間を振り返ると、本当に周りに恵まれていたなあと感じています。私自身成長できたと感じたときには、必ず友達が周りにいたときでした。楽しいことや悩みを共に共有し、切磋琢磨しながら一緒にステップアップすることができました。どの瞬間を切り取っても、かけがえのない大切な時間です。

インターンシップや教育実習、就職活動、教員採用試験など大学生活中、大きな壁が立ちはだかっていることがあるかと思います。そんなときは、ぜひ周りの人に助けを求めてみてください。  
必ず周りの先生方や友達が力になってくれます。皆さんにとって、実りある大学生活になりますように…。

## 特別支援学校教諭

〇さん

- ・2020年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・現在、岐阜県の公立学校で特別支援学校教諭として活躍中

### 志望動機について

高校のとき、担任の先生に勧められたのがきっかけです。はじめは農業高校の教員になり出身校に戻ることも考えたのですが、障がいのある幼馴染を始めたとした友人の影響もあり、特別支援教育に携わることを決めました。

### 実習について

小学校教育実習では、6年生の学級に配属されました。新型コロナウイルスの影響で短縮され、とにかく時間に追われていました。略案指導では初めての英語の授業に戸惑い、細案指導では道徳科の奥深さに触れました。特別支援学校教育実習では、高等特別支援学校1年生の学級に配属されました。教員同士の連携の大切さや児童理解の難しさを切実に感じながらも、毎日新しい学びに出会い、ワクワクした気分で望むことが出来ました。全く違う学校での実習を近い期間で行え、その違いを感じる事ができたのも面白かったです。

### 採用試験・就職活動について

就職活動と両立する自信がなかったため、採用試験一本に絞って勉強に励みました。3年生の夏までは一切対策を始めておらず、部活動やボランティア活動、日々の勉学に力を注いでいました。東京アカデミーの講座の中で初めて模試を受けた時に、現状に危機感をもち、まずは一次試験突破を目指して筆記試験の勉強をしました。二次試験対策については、面接試験に比重を置きました。学内外問わず、色々な人と面接練習することで自分の視野を広げることができたと思います。1次対策で勉強した教育法規や教育心理の知識を上手く活用することを心掛けました。

### 後輩へのアドバイス

大学には、夢を応援してくれる先生や仲間が沢山います。理想を語ることを恥じず、夢の実現に向かってひたむきに行動すれば、必ず沢山の人が力になってくれます。大学生活では、勉強は勿論、様々な場所に参加し、自分の経験値や人間性を高めることも、採用試験や就職活動に大きく関わってくると思います。貴重な学生生活を無駄にせず、夢や目標に向かって充実した日々を過ごしてください。

## 特別支援学校教諭

〇さん

- ・ 2021年度 現代教育学部 現代教育学科 卒業
- ・ 現在、愛知県の公立学校で特別支援学校教諭として活躍中

### 志望動機について

高校3年生の夏に担任の先生から勧められたことです。その後は、発達障害のある子どもたちを預かるアルバイトや障害のある方と交流できるボランティアに参加しました。ある児童と関わって、1年後に再会した時の成長を見て、学校でどのような指導・支援が行われているのか気になり、児童生徒と共に成長したいと思ったことが特別支援学校に決めた理由です。大学に進学し、インターンシップや教育実習、放課後デイサービスでのアルバイト等の多くの経験を経て、さらに特別支援教育について興味が深まりました。

### 実習について

小学校4年生、特別支援学校 高等部2年

どちらも新型コロナウイルスの影響により、児童生徒と満足に関わる事ができませんでした。ですが、教育実習中は先生方に助けていただき、授業で失敗をしても同じ教育実習生と励ましあって乗り越えられました。大学の座学では学ぶことの出来ない生の教育現場を体験させていただけました。現場に出てみると思った以上に大変ですが、それ以上に多くのことを学ぶことができます。先生方も親身に相談に乗ってくださいます。より強く特別支援教育に携わりたいと思いました。

### 採用試験・就職活動について

採用試験は、特別支援学校に教育実習に行く前に願書を出すことになります。なので、実習後に小学校で願書を出し後悔する学生もいました。小学校も特別支援学校もそれぞれ違った魅力があるので、小学校、特別支援学校の児童生徒と関わる機会を自分で見つけ、参加することをオススメします。

筆記の試験対策として、自分の苦手な科目を得意とする友達と勉強することです。私は理科が苦手だったので、理科免の友達に何度も教えてもらいました。あとは、大学で授業がある日は朝早く来て、6階ゼミ室に閉じこもって勉強していました。勉強は大切ですが、同じくらい息抜きすることも大切だと思います！

### 後輩へのアドバイス

小学校か中学校か特別支援学校か、自分がどの先生になるかはよく考えてほしいです。それぞれ違った魅力があるので、学生のうちにたくさんの事に挑戦をして、しっかり悩んで、後悔しないようにして欲しいです。私もそうでしたが、一人でボランティアに参加するのは緊張すると思います。ですが、絶対に勉強になるので、友達を誘ったりして学生のうちにどんどん挑戦して欲しいです。

新型コロナウイルスの影響で思ったように楽しめなかったり、学ぶ機会も少なかったりするかもしれませんが、だからこそできることを考えて、プラスにとらえて頑張ってください！

コンテンツ一覧に  
戻る

## 幼稚園教諭

Rさん

- ・2019年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、豊田市の私立幼稚園で幼稚園教諭として活躍中

### 志望動機について

幼稚園教諭に興味を持ったきっかけは4年生の時に行われた実習です。

実習先の園が遊びの中で楽しみながら子どもたちが様々なことを学んでおり、その園で私自身が子どもたちの「先生」として関わっていきたい、子どもたちの成長を見守りながら、自分も成長していきたいと思ったので幼稚園教諭になりました。

### 実習について

実習は毎回楽しく、実際に現場で働いている保育士の様子を見ながら勉強が、実践力がとても身につきました。

日々様子の変わる子どもたちと向き合いながら、全力で遊び、毎日へとへとで帰ってきてから日誌や指導案を書くのは、とても苦勞しました。ですが、子どもたちに「先生、大好き！」などと言われると、そんな苦勞も吹き飛び、生活に慣れた頃に子どもたちとお別れするのが、とてもさみしかったです。

### 採用試験・就職活動について

就職活動中は、面接練習と自己分析を主にやっていました。

就職活動用のノートを作り、自己分析をしたり、自分の受ける就職先のことを調べ、まとめていました。

面接練習では、先生の研究室に積極的に行き、面接練習をしてもらったり、友達と時間を作って、お互い質問しあったりしていました。

### 後輩へのアドバイス

就職活動中は正直大変で、いつ終わるかもわからず途中で嫌になるときもありました、

ですが、同じ保育の道を目指す友達同士で面接の練習をしたり、相談したりすることで、モチベーションも上がり頑張ることができました。

4年間勉強と遊びのメリハリをつけて、就職活動中は友達同士励まし合って過ごすことが大切だと思います。

## 幼稚園教諭

Tさん

- ・ 2020年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・ 現在、名古屋市の私立幼稚園で幼稚園教諭として活躍中

### 志望動機について

4年生での幼稚園実習をきっかけに幼稚園教諭になりたいと強く思いました。登園から降園まで子どもと関わり、子どもの姿を把握していることや、実習先の先生が「クラスの子どもが私たちの先生と思えるように、誰よりも子どものことを見ている」と仰っていて、私もそんな先生になりたいと思い、幼稚園教諭になりました。

### 実習について

どの実習も楽しく行うことができ、実際に保育者の姿を見て、取り入れ、子どもと関わることで学ぶことができました。苦勞したことは、責任実習やピアノです。実習が始まる前にたくさん練習をし、実習開始には弾けるようにして乗り越えました。責任実習や部分実習は子どもの姿などから季節感も取り入れて考えるのに苦勞しました。よかったことは、園長先生や先生方に「よくやってくれてるね」などとお声をかけていただいたことや、実習最後にはクラスの子ども全員から似顔絵のプレゼントをもらったことです。子どもの笑顔や言葉で大変な実習も乗り越えることができました。

### 採用試験・就職活動について

主に取り組んでいたことは、気になる園を調べることに、積極的に園見学や説明会に参加すること、自分の考えをまとめることを主に行っていました。また、友達と面接の練習もしました。特に面接では「なぜ幼稚園がいいのか」など志望した理由を聞かれるので、自分の考えを伝えられるようにしました。

### 後輩へのアドバイス

自分が将来どんな人になりたいのか、そのためにはどのような園に就職するのがいいのかを就活が本格的に始まる前に考えておくことが大切だと感じました。周りの就活状況に惑わされないことも大切ですが、友達と支え合って頑張ってください。

## 幼稚園教諭

Sさん

- ・2022年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、春日井市の私立幼稚園で幼稚園教諭として活躍中

### 志望動機について

幼い頃からピアノを習っていたこと、中学・高校の6年間吹奏楽部に所属していた経験があり、そこで培った知識や技能を生かした職業に就きたいと思い、幼稚園教諭を志望しました。

### 実習について

現場で保育者の方々がどのように子ども達と関わっているのか、どのような援助をしているのかを、実際に保育に入って学ぶことができました。苦勞したことは、部分実習や責任実習での、年齢や発達に合わせた指導計画を立てることです。実習させて頂いていた担任の先生が親身に相談に乗ってくださったり、友人と意見を交換し合ったりして、より良い活動を考えて展開することができました。しんどいなと思うこともありましたが、子ども達が「先生一緒に遊ぼう！」と声をかけてくれたことや、お手紙や似顔絵を描いたプレゼントをくれたことが、とても嬉しく子どもと関わることの楽しさを感じることができました。

### 採用試験・就職活動について

気になる幼稚園を調べたり合同説明会に参加したりして、気になった園があったら積極的に園見学に行っていました。実際に園見学に行くことで、お話を聞いただけでは分からなかったことや、園の雰囲気、先生方がどのような保育をしているのかを知ることができ、良かったです。気になることは些細なことでも積極的に質問すること、譲れない条件を自分の中で決めておくことが就職活動をする上で大切だと感じました。勉強は必要最低限しかやっていませんでした。保育職に就くなら、ピアノは弾けるに越したことはないと思います。

### 後輩へのアドバイス

大学生のうちにはできることは何でもいいので沢山経験しておいて、アルバイトやサークルなどで、色々な人と関わる機会をもっておくといいと思います。実習や就職活動など大変なこともあると思いますが、先生や友達、親など身近な人を頼りながら、頑張ってください。

## 幼稚園教諭

Kさん

- ・2023年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、三重県の私立幼稚園で幼稚園教諭として活躍中

### 志望動機について

幼稚園の時の先生が大好きで私も先生になりたいと思いました。また、実習を通して子どもたちと関わる中で改めて子どもが好きだと思ったし、子どもたちの成長を近くで感じることができるとにやりがいを感じ、子どもたちに寄り添った保育がしたいと思い保育者を志望しました。

### 実習について

良かったことは、子どもたちからの素直な言葉をもらうことでやりがいを感じ、子どもたちのキラキラした笑顔がみれたことが本当にうれしかったです。

苦労したことは、子どもたちは一人ひとり思いや性格も違うのでどうしたら皆が納得できる形になるか、どのような言葉がけをしようかとたくさん悩んだことです。

### 採用試験・就職活動について

悩んだときは先生方に相談しにいき、たくさん指導していただきました。また、友人と面接練習や意見交換をたくさんして互いを高め合いました。

### 後輩へのアドバイス

大学生活の中でたくさんの人と出会い、交流することで得られるものがたくさんあります。一人で悩まず、友人や家族、先生に頼って自分の夢を実現できるよう頑張ってください。

4年間はあっという間に過ぎるので後悔しないよう楽しい学生生活を送ってください。

## 幼稚園教諭

Tさん

- ・2024年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、岐阜県の私立幼稚園で幼稚園教諭として活躍中

### 志望動機について

幼稚園の時から先生のことが大好きで、こんな先生になりたいと憧れを抱き目指すようになりました。また、実習を行う中で、子どもたちと直接関わり子どもたちの成長に携わってきたいとより強く感じるようになり、保育者を志望しました。

### 実習について

実習を行う中で、子ども達と直接関わって、教科書では分からない実際の子どもたちの姿や援助の仕方を学ぶことができました。

また、子どもたちからとにかくたくさんパワーをもらいました。また、子ども達一人一人性格や考え方は異なり、クラスによっても特色があるため責任実習の計画をする中でどんなことに気を付ければいいのか、どうしたら興味をもってもらえるのか悩みました。そのため、色々な系統の遊びを事前に知っておくことが大切だと感じました。

### 採用試験・就職活動について

自分の得意なことや苦手なことなど自分を見つめ直し、どんな園があるのか、自分にはどんな園が合うのかなど説明会に積極的に参加し、色々な園の話聞かせていただきました。

また、採用試験については先生方に相談させていただき、たくさん指導していただきました。

採用試験当日は、練習してきたことを思い出しとにかく堂々と行いました。

### 後輩へのアドバイス

自分の今後の将来が決まるタイミングで悩み苦しい時期だと思います。自分一人で悩みを抱えてどうにかしようとするのではなく、先生方や友達に相談し、頭をスッキリさせることも大切だと感じました。

また、自分の周りの状況を気にしてしまうこともあると思いますが、自分を大切に頑張ってください。

コンテンツ一覧に  
戻る

## 保育士

Iさん

- ・2015年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、北名古屋市の保育士（公務員）として活躍中

### 保育実習について～事前に準備したこと～

ペープサート（紙人形劇）を2つ作り、実習で声をかけていただけたときにいつでもできるように準備しておきました。

子どもたちにとって新鮮なペープサートは、関心を持って見てくれている様子が伝わってきました。

その他、手遊びや絵本のレポーターは、ありすぎて困ることはないので、実習の前から増やしておきました。

### 保育実習について～苦勞したこと・頑張ったこと～

部分実習や一日実習は、苦勞したことでもあり、頑張ったことでもあります。

一人で一つのクラスをまとめることは想像以上に大変で、戸惑っている私に手を貸してくれる子どもや応援してくれる子どもがいたので、頑張ることができました。

### 保育実習について～保育現場で学んだこと～

実際の保育の現場では、自分の思っているようにならないことがたくさんあり、保育士という仕事の難しさを痛感しました。

子どもの表情や言葉のひとつひとつの意味を考え、子どもの感情に寄り添うことができるよう努めました。

自分自身も、年齢が異なる子どもたちに、それぞれあった言葉掛けや接し方を意識しました。

野外活動の際には、子どもが遊具の取り合いで怪我をしてしまったことがありました。大きな怪我にはなりませんでしたが、保育士という仕事が子どもの命を預かる重要な仕事であることを、改めて実感しました。

目の前の子どもだけでなく、全体の状況を把握し、行動する事を心がけるようになりました。

### 保育士採用試験について ～準備したこと～

テキストを繰り返し解き、間違えた問題はノートにまとめて、何度も見返しました。

先輩の受験報告書を参考にさせていただいたり、先輩に直接お話を伺い、試験の傾向を把握しました。

### 保育士採用試験について ～苦勞したこと～

ピアノが得意ではないので、試験の際に緊張することを考えると、上手に弾くことができるか常に心配でした。

しかし、自分のレベルにあった楽譜を先生と相談し、何度も練習することで自信ができました。

### 採用試験当日について

必要な荷物をまとめて、前日は早く眠りました。

受験した自治体の面接官の方々は笑顔で優しく、緊張も柔らぐような暖かい雰囲気、面接が受けられました。

### 今後の目標・夢

子どもの手本でありながら、身近な存在でいられるよう、いつも笑顔の保育士になりたいです。

### 後輩へのアドバイス

実習や採用試験は、大変なこともたくさんありますが、友達や先生方の支えがあればきっと大丈夫です。頑張ってください。

## 保育士

Sさん

- ・2019年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、津島市で保育士として活躍中

### 志望動機について

施設実習で児童養護施設へ行き、職員が子ども一人一人の行動や言動を分析し、その子どもにあった対応を常に考え子どもと関わっていた姿を見て、私もこのような保育者になりたいと思いました。そのため、施設の仕事に興味を持ちました。

その後、社会福祉を研究テーマとするゼミに入り、乳児院へ見学に行き、乳児院の役割や重要性を知るうちに乳児院に興味を持ちました。そのため、乳児院に就職しようと決めました。

### 実習について

私は入学する前、施設というところがどのような場所か知りませんでした。児童養護施設へ実習に行き、職員が子ども一人ひとりのことを熱心に考えて働く姿を見て、私もこんな保育者になりたいと思いました。このような保育者に会えたことがとてもよかったと感じています。

児童養護施設は保育所、幼稚園とは違い、子ども達が生活をする場所です。そのため、朝早くから実習が始まるので最初のうちは起きるのが大変でした。

### 採用試験・就職活動について

C-NET や学科の掲示板などでこまめに求人票を確認すること。自分の就職したい場所以外に家から近い場所など比較できる場所も見たほうが良いと思います。

将来、自分はどんな保育者になりたいか、どのような保育をしたいかを明確にすること。そうすることによって、自分に合う職場を探しやすくなると思います。

### 後輩へのアドバイス

就職先が決まっていないうちは気持ちが焦ってしまいますが、焦らず自分が納得できる就職ができるように頑張ってください。

## 保育士

Mさん

- ・2019年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、名古屋市の保育士（公務員）として活躍中

### 志望動機について

幼少期から年下の子どもたちと触れ合う機会が多く、気づけば保育士になりたいという夢を持っていました。

そして中部大学の幼児教育学科へと進学を決めました。

充実した環境の中でこの4年間を過ごし、実践的な授業や実習などを通して、改めて保育士になりたいという思いが強くなりました。

### 実習について

実習では、日々の学校生活では体験できないような濃い時間を子どもたちと過ごすことができました。

慣れない生活や実習記録、責任実習の準備などは大変でした。ですが、毎日子どもたちの楽しそうな笑顔を見て、自分自身も楽しみながら多くのことを現場で学ぶことができました。

責任実習では、指導案通りにはいかないことはありましたが、時間をかけて考えたものを全力で楽しむ子どもたちの姿を見ると、非常に嬉しく思いました。また、先生方から多くのご指導をいただき、自分自身を成長させることができる経験となりました。

### 採用試験・就職活動について

筆記試験前は、朝から夜まで友達と勉強に励みました。

つまずいた問題を教え合ったり、暗記問題は問題を出し合ったりして試験対策をしていました。

面接練習や実技試験対策は、友達だけでなく先生にも助けていただきました。長年の傾向も教えてくださるので、先生に相談することは大切だと思います。

自治体によって、試験内容が違うので傾向などをしっかりと把握することや、受験する地域に実際に足を運び、自分の目で見ることも重要だと感じました。

### 後輩へのアドバイス

私は就職活動は団体戦だと思っています。

辛く長い戦いにはなりますが、諦めなければ結果は必ず出ます。そして、同じ道を目指す友達はとても大きな存在になります。弱音を吐き合えたり、励まし合ったりできる仲間は、就職活動を乗り越えられる心強い存在になってきます。

学科の先生も親身になって相談にのってくださり、試験対策でも私の力をたくさん引き出してくださりました。

周りの助けを得つつ、努力を重ねて良い結果を掴み取って下さい。応援しています。

## 保育士

Nさん

- ・2020年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、春日井市の児童デイサービスで保育士として活躍中

### 志望動機について

施設実習や保育所、幼稚園実習を通し、子どもたちと関わっていく中で、障がいについて興味を持つようになりました。しかし、実習では障がいを持つ子どもと関わる機会がなく、アルバイトで障がいを持つ子どもたちと関わる機会を設けました。アルバイトをしていく中で、障がいについてもっと知りたいという気持ちや、障がいを持つ子どもたちとコミュニケーションをうまく取りたいという気持ちが芽生え、志望しました。

### 実習について

実習前は、施設で生活する子どもたちに対し、漠然としたイメージしか持っていませんでした。しかし、実際に施設へ行ってみると、毎日楽しそうに生活する子どもたちの笑顔で溢れていました。親元を離れて生活する子どもたちにとって、施設の職員さんが重要な役割を担っているということを知ることができ、とても勉強になりました。毎日笑顔で溢れる子どもたちの姿を見て、自分もこの笑顔を近くで見たい、子どもたちとの信頼関係を築きたいと思うようになりました。乳児院での実習であったため、はじめはオムツ替えや着替えの時に思い通りにいかず大変でしたが、回数をこなすうちにスムーズにできるようになりました。

### 採用試験・就職活動について

自分の興味のある施設や、保育園、幼稚園などに見学に行ったり、アルバイトを通して様々な経験を積むことが大切だと思います。難しく考えるのではなく、「今、自分がやりたいこと」や「将来どのようなことをしたいのか」を優先して考えると、具体的なイメージが見えてくると思います。分からないことは周りの友達や先生に聞くことも大切です。

### 後輩へのアドバイス

就職はとても不安なことだと思います。本当に就職できるのか、就職してからやっていけるのかなどたくさん悩むことがあると思います。そんな時こそ、友達や先生に相談して、自分の気持ちに整理をつけることが大切だと思います。私は、今の自分がやりたいことを優先し、就職先を決めました。迷ったら、自分は何がしたいのか、なりたい自分はどのような人なのかを想像してみると答えが見つかるかもしれません。様々な悩みや不安があるとは思いますが、周りの人にたくさんの刺激を受けて頑張ってください！

## 保育士

〇さん

- ・2020年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、犬山市の公立保育所で保育士として活躍中

### 志望動機について

私が保育士を目指したきっかけは、母がいつも楽しそうに保育士の仕事をしていたからです。楽しそうに仕事をしている母の姿を見て「私もこの仕事がしたい」と目指すようになりました。4年間の実習を通して、幼少期の保育が子どもの育ち発達の基礎になるという責任感を感じました。しかし、その中でも子ども視点での発見や驚きを共有できる楽しさ、子どものできるようになったことを一緒に喜ぶところにやりがいを感じ、より強い思いで目指すようになりました。その中でも公務員の保育職を目指した理由は、公務員の保育職には、移動があります。移動があることによって、より沢山の保育者、地域の方々と関わりが持てると考えました。沢山の保育者と関わりが持てることによって様々な保育技、保育観を身近に学ぶことができると考えたからです。

### 実習について

実習前にやっておいてよかったことは、あらかじめYouTubeなどでいくつかの手遊びを覚えていったことです。実習中に子どもの前で一緒に手遊びをする機会が多くあると思います。その際に自分の引き出しが多いと便利でした。実習中は日誌を書いたり、疲れてなかなか調べる時間と覚える時間を確保するのは大変だと思います。実習前にできることはやっておいた方が、実習期間中にやるが多すぎていっぱいになることを防げると思います。

実習では、朝も帰るときも大きな声で挨拶をする、職員室にいらっしゃらない先生方がいれば、その部屋まで行き、しっかりと挨拶をすることや、日誌を毎日欠かさず提出するといった基本的なことが一番大切だと思います。

### 採用試験・就職活動について

私はあまり長い時間集中力が続きません。そこで、2時間やったら1時間休憩と決め勉強していました。その2時間は集中することができ、だらだら勉強するという事が防げたと思います。

また、いくつかの参考書をやり過ぎて頭がこんがらがってしまわないよう参考書は2冊と決めそれを何回も繰り返し行いました。少ない参考書を繰り返し何回も行うと自分なりに要点をつかむことができると感じました。過去問をやる際は、問題を解いて終わりではなく、回答解説も読み覚えるとより理解が深まると思います。

### 後輩へのアドバイス

公務員試験は長期戦です。不安になることは当たり前だと思います。一人で不安を抱えるのではなく誰かに頼ることも大切なことだと思います。勉強でつまづいたら、先生方に頼ってもいいと思います。

面接練習では、先生とやる事ももちろん大切ですが、友達同士でいかに意見を言い合えるかも同じくらい大切です。友達の意見を参考にしながら自分の保育観を持つこともできます。

一人でやるのではなくみんなでやると思うと少し気持ちも軽くなると思います。適度に休憩しながら頑張ってください。

## 保育士

Sさん

- ・2021年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、美濃加茂市の私立保育所で保育士として活躍中

### 志望動機について

小さい頃から「幼稚園の先生」に憧れており、実習を通して改めて保育者になりたいと強く思いました。施設実習や幼稚園実習をする中で、どこに就職するのかたくさん迷いましたが、自分が育ってきた地元で、子ども達と一緒に成長することができる場所で働きたいと思い、「保育所」を志望しました。

### 実習について

実習前の準備として、手遊びやピアノ曲、読み聞かせの練習などを行っていました。家で少しでも練習しておく、子どもの前に立った時に自信をもって行うことができるので、予習はとても大切だと思います。また、実習日誌に時間を取られてしまい寝る時間が削られてしまうと次の日がつらくなってしまいますので、実習中に細かいことでもメモを取る癖をつけると、家に帰ってから楽に日誌を書くことができると思います。私は、夏に行う実習で体調を崩してしまい、思うように実習ができなかったのもので、睡眠や食事など自分の体調管理もしっかり行うことが一番大切だと思います。

### 採用試験・就職活動について

公立園にするか、私立園にするか最後まで悩むことがあると思います。どちらの園も受験することができるように、試験勉強はしておくといいと思います。公務員試験を受けなくても自分の知識にもなるので、今までの勉強内容を復習しておくといいかなと感じました。

また、夏休みの間に、たくさんの園の見学に行くといいと思います。自分がここで働いているというイメージをもつことができるので、気になる園には積極的に見学や自主実習をお願いすることが大切かなと思います。

### 後輩へのアドバイス

就職活動に対して、実感が沸かなかったり、不安をたくさん抱えたりしてしまうと思います。少しでも不安を少なくするために、授業の復習をしてみたり、気になる園を調べてみたり、先生や友達と話をすることが重要だと思います。同じ目標を持つ友達と相談し合うことで、頑張ろうという気持ちが芽生えてくると思います。今まで一緒に頑張ってきた友達と助け合いながら、就職活動を頑張ってみてください！

## 保育士

Mさん

- ・2021年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、稲沢市の公立保育所で保育士として活躍中

### 志望動機について

私自身が幼児期に、保育士に「自分を受けとめてもらえた」と実感できる事がありました。その時の事が保育士という職を視野に入れたきっかけです。また、実習やサークル活動で子どもと関わる中で子どもの気持ちや考えを受け止めて対応出来るような保育士になりたいと思うようになりました。

### 実習について

私は大学からピアノを始めたこともあり、苦手意識が強かったのですが、片手だけでもメロディーを辿れるように練習していました。子ども達の前で弾く時、緊張で何度も失敗しましたが、どんどん慣れてきます。出来るだけ弾きたくない、が本音ではありましたが、今思うと経験できてよかったと思います。また、責任実習は思いつく限りの予想される子どもの姿を想定して内容を詰めることがとても大切だと感じました。また、パネルシアターやペープサートなどを前もって作っておくと実習でも、就職後でも使える物になるので、長期休みに制作することをお勧めします。

### 採用試験・就職活動について

筆記試験について、私はよく友達とテレビ電話を繋ぎながら勉強をしていました。また、東京アカデミーで貰ったプリントや模試を見直して苦手な部分や、先輩方の報告書に書いてあるものの類似問題を練習しました。面接については、友達と練習し、先生に見てもらう、ということを繰り返し行いました。友達と意見交換したり、色々な事柄について話し合ったりする事で自分の考えや価値観が定まったり、より視野が広がったりするので、是非沢山話し合ってください。あとは、当たり前ですが、しっかり情報収集をしてください。

### 後輩へのアドバイス

ピアノは、とりあえず笑顔で自信満々に行くこと、不安を表情に出さないことです。何とかあります。実習記録も責任実習も心配事は絶えないとは思いますが、けれど、しっかり自分の考えを持ち、準備をした上で、失敗上等！くらいで挑むとふっきれて案外楽しく出来ます。就職活動は、きっとどれだけ勉強や面接練習しても、足りない・もっとしていけば、と思います。けれど、もっと意識的に軽く考えるようにしてください。私は、何とかなる精神で乗り切りました。友達とも協力しつつ、ゆるく図太く採用試験に臨んでください。皆さんが望む場へ就職出来ることを応援しています。

## 保育士

Mさん

- ・2021年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、桑名市の社会福祉施設で活躍中

### 志望動機について

入学当初は幼稚園教諭になりたいという思いがありましたが、実習やゼミの活動を通して、より近い距離で子どもを支えたい思いが強くなっていきました。施設に入所する児童の中には様々な困難を抱えた子どもたちがいます。そうした子どもと関わる上で私の保育観を改めて考えたときに個の関わりを大事に思いが自分の中で大きくあったのでこの仕事を志望しました。

### 実習について

施設実習では、主に女の子の生活するユニットで実習を行いました。できることに制限がありましたが、日常生活のお手伝いや一緒に外で遊ぶことをしていました。施設によっては独自のルールがあり子どもと職員、子ども同士の関わりに決まりがありとても驚きました。これは子どもたちが退所後、社会に出ていくことを見越した支援だと感じました。子どもたちは大人の姿をよく見ているので行動一つ一つが信頼関係に直結することを意識して子どもと関わることの大切さを学びました。特に高校生との関わりではこのことを意識して関わると良いと思います。

### 採用試験・就職活動について

まず、自分がどのように子どもと関わっていきたいのか自己分析することだと思います。そこから自分の保育観や子ども観というのが確立していくと思います。その他にも、自分の興味のある園や施設に見学に行くことです。実際に足を運んで見ると自分がその場所で働くイメージが見えてくるかもしれません。たくさん経験をして選択肢を増やしていくと視野も広がっていくと思います。

### 後輩へのアドバイス

就職は人それぞれで早く決めた人や思い悩む人、将来の不安に駆られて焦ってしまう人もいるかと思いますが。その不安に負けずに、自分のしたいことやなりたい自分になれるよう周りに流されなくて取り組んでほしいと思います。もし、迷ってしまったときは友達や先生に相談してたくさん刺激を受けてください。応援しています。

## 保育士

Sさん

- ・2022年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、長野県飯田市の公立保育所で保育士として活躍中

### 志望動機について

私は飯田市の公立保育園に通い、そこで行われている自然保育を体験してきました。大学に入り、自然を通して地域の子どもたちと関わる保育・教育ボランティア、「あつまれ！わんぱく隊」に所属する中で、自分自身が経験してきた自然との触れ合いは、当たり前なものではなく、特別な環境であったことに気付きました。これらの経験から、自分が感じてきた自然の魅力を将来の飯田市の子どもたちに伝え、ともに親しみながら保育を行っていきたいと考えようになりました。

### 実習について

3歳から習ってきたピアノの力を活かし、実習先では積極的に弾いてきました。子どもが口ずさんでいた歌を即興で弾くことで、ピアノの周りに子どもたちが輪になって集まり皆で楽しく歌うことができ、大きな喜びを感じました。また、責任実習では子どもたちの姿から発達を見通して保育のねらいや活動内容を考えることに力を入れました。しかし、実際に行ってみると自分の予想していなかった子どもたちの反応や動きがあり、その姿に合わせて対応していくことがとても難しく感じました。今後、保育者として実習で感じたことを忘れず、常に向上心をもって保育を行っていきたいと思いました。

### 採用試験・就職活動について

採用試験のために、面接練習に力を入れてきました。限られた時間のなかで、自分の魅力をどのように伝えていくかを考え、笑顔で明るく話すことを意識しました。様々な自治体を受験してきたので、回数を重ねるうちに場の空気に慣れ、面接官との会話を楽しめるようになりました。特に、現場を知っている面接官(園長先生等)がいる際は、実習についての話をするとき、自分が感じたことや子どもの反応などを具体的に伝えることで、私が保育者として実際に働く姿を想像してもらえたのではないかと思います。

### 後輩へのアドバイス

就職活動は終わりの見えない不安や、味わったことのない緊張感があると思います。特に初めて会った面接官に自分の良さを伝えるというのは、最初は難しいかもしれませんが、「こんな人と一緒に働けたら楽しいだろうな」と思ってもらえるように努力してきました。面接と重く考えず、会話をしようという気持ちで望むと、少しやわらかい空気に感じられるかもしれません。

就職活動は最後まであきらめずに向き合うことが大切だと思います。自分の良さが発揮できるよう、頑張ってください。

## 保育士

Iさん

- ・2023年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、春日井市立の公立保育所で保育士として活躍中

### 志望動機について

私が保育士を目指したきっかけは、保育士である母です。その姿を幼い頃から見えてきて、人からたくさん感謝してもらうことのできる保育士の仕事に自然と憧れを感じるようになりました。そこから、中学時代の職場体験や高校時代のインターンシップを経験したことで、命や子どもの将来を担う責任のある仕事ではありますが子どもの成長をそばで見守ることができ、その成長を子どもや保護者と一緒に喜び合うことのできる保育士の仕事により魅力を感じるようになりました。

### 実習について

大学の授業で学んだことと重ねながら子どもと実際に関わり、先生方の配慮について知ることが出来て、毎日が学びでいっぱい充実した日々でした。実習前に、入らせていただくクラスの発達に合わせた絵本を用意することや、手遊びを練習して参加をしました。実習では毎日子どもの前に立たせてもらえる機会があるので、実習が始まって調べる余裕が無くなる前に準備しておいたことで、その学びを日誌に反映させていくことが出来ました。責任実習では、クラスの中でも興味や発達の面でも差があるので、一人ひとりが楽しく安心して過ごすためにはどうしたら良いか計画の際にとっても悩みました。また、そのためには一人ひとりの子どもについて理解できるように普段の保育の中で関わりながら予想される姿をたくさん考えておくことの大切さを感じることが出来ました。

### 採用試験・就職活動について

保育の経験を出来る機会を学内のサークルでもアルバイトでもいいので自分の生活ややりたい事にあったものに参加をしておく、就職試験の際にも活かしていくことが出来ると思います。私は面接に苦手を感じていたので、一緒に試験を受ける友達と先生に試験対策をお願いして、そこでもらった言葉を生かして次の対策に繋げられるように自主練や友達と一緒に練習するサイクルを繰り返すことで自信に繋げていくことが出来ました。頑張っている友達の姿や、気持ちを共有できる周りの人の存在があったことで、気持ちが途切れることなく最後まで取り組むことが出来たと思います。

### 後輩へのアドバイス

就職活動では、初めてのことも多く不安が重なると思います。初めはなかなか自分と向き合っていくことに苦しさを感じるかもしれませんが、向き合った分だけ、試験の中で自分を魅力的に伝えられることに繋がるとと思います。一人で練習していると考えが凝り固まり、不安が大きくなってしまふこともあります。そんな時こそ先生や友達など周りの存在にも頼っていくことで、不安な気持ちを軽くできて、刺激ももらうことが出来ると思います。頑張りすぎて自分のペースを見失いそうになった時には、一息ついてみたり、身近な人に話を聞いて貰って気持ちに整理をつけたりしながら、自分らしく前向きになれる方法を見つけて頑張ってください。

## 保育士

Nさん

- ・2024年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、名古屋市立の施設保育士として活躍中

### 志望動機について

私は中学生の時に保育園で職場体験を行い、子どもという存在に興味を持ったことがきっかけでした。職場体験で子どもは、子ども特有の感性と柔軟な思考を持っており、とても尊い存在だと感じ、将来子どもたちの成長を近くで見ながら幼児期の生活を大切にしたいと考えたことが保育士を目指す決め手となりました。

### 実習について

実習では、やはり大変だったことが強く記憶に残っています。生活の変化、人間関係の変化が一気に来る実習は心身共に疲弊してはっかりだったと思います。加えて、私は考えていることを上手くまとめて文章にするのがとても苦手で、間違えると直すことが大変な実習日誌ではとても苦労しました。

実習日誌を書く時には1度ルーズリーフに書きたい内容を起こし、文章を組み立ててから日誌の用紙に書いていたため時間がかかりしんどかったです。

そんな状態でも最後まで実習ができていたのは子どもたちとの関わりが心の支えになっていたからだと思います。保育士を志望したきっかけにもあった通り、子どもたちはとても魅力的で一緒にいるだけで元気をくれました。自分の印象に残った出来事はメモして帰ってから見返したり、友達に共有したりしていたことを覚えています。

そういったところは実際に子どもたちと関わることの良さだと改めて思います。

### 採用試験・就職活動について

勉強方法というより、就職活動を乗り越えるために大切だと感じたことになります。

就職活動をしていた時の私は、どうしていいかわからず、悩みを解決できないことにも焦りを感じて自分で考えることをやめてしまいそうな時が多々ありました。そんな時でも自分で歩みを進めることができたのは周りの人達の励ましや、客観的な意見による支えでした。

何も出来なくなっている時の自分は視野が狭く、考えが凝り固まっていたような気がします。そのような状態を周りの人の言葉が変えてくれました。

就職活動は1人で向き合うには重たい出来事でした。そう思うのは私だけでは無いと思います。そういう時には1人にならず人に話したり、頼ったりすることも就職活動を進める為の要素だと思ってどんどん人を頼ると良いと思います。

実際に試験で面接を受けた際には、色んな人と話をしているうちに気づくことが出来た自分の姿や深めた考えを活かすことが出来たと思っています。

### 後輩へのアドバイス

私は授業のテストや実習、就職活動でしっかりと対策をして計画で挑むということが全然と言っていい程できませんでした。

それでも全て乗り越えてこられたのは周りの人達の支えと、普段から少しでも考えをめぐらせていたからだと思います。周りの人達の支えという点については上の就職活動についてでも書いた通りです。自分が思っていたよりも周りの人の存在は影響を与えてくれるものでした。

どんな形でもいいと思います、自分以外の存在と関わってみると何かいいことがあるかもしれません。考えをめぐらせていたというのは元々の自分の性格もありますが、色んなことを自分の事のように捉えて考えたり、興味を持つようにして取り組んでいました。

普段から少しでも考えることでいざと言う時にずっと頭に出てきたり、自分のものになったりしているかもしれないので意識してみるといいかもしれません。

長くなってしまいましたが、体も心も壊さないようにすることが一番なので、自分に出来ることを精一杯取り組んでいってください！

## 保育士

Iさん

- ・2024年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、あま市立の公立保育園保育士として活躍中

### 志望動機について

私は、「ピアノが得意で子どもが好き」という理由で幼児教育学科に進学し、就職は一般企業を考えていました。しかし、大学の授業や実習を通して、これからの社会を担う子ども達の成長を一番初めに、身近な存在としてサポートする保育士という職業に魅力を感じるようになりました。

特に、ボランティアサークル活動での経験は、実習に加えて子どもと関わる機会が増え、思いがより強くなりました。公立の保育園を志望した理由は、長く働ける環境が整っていることで、安心・安定して生活できると思ったからです。

### 実習について

実習では、子どもに掛ける言葉の選び方に苦労しました。子どもの目線に立ち、子どもが分かる言葉を選ぶことに難しさを感じました。

しかし、こうした経験ができたことが実習の良かったことで、貴重な体験でした。常に自分が子どもの前で話す姿をイメージしたり、実際に子どもがいると思って声に出して練習したりすると、落ち着いて子ども達との活動を楽しむことができると思います。

また、基本的なことですが、自分から挨拶や行動をすることも大切だと思います。

### 採用試験・就職活動について

専門試験は、参考書や授業で配布されたレジュメをひたすら音読し、問題集を何度も繰り返し解いて勉強しました。

教科書と自分の母子手帳を照らし合わせたり、幼少期の自分について母から聞いたりして、具体的に理解出来るよう工夫して勉強することもありました。

面接練習では、文章を丸暗記するのではなく、キーワードで覚え、何度も声に出して練習していました。考えがまとまらない時や言いたいことを上手く言えない時は、思っていることを箇条書きで紙に書き出し、客観的に自分の意見を捉えられるよう意識して取り組みました。

何度も先生に指導して頂いたり、友達同士で練習し合ったりすることで、当日は落ち着いて、面接官との会話を楽しんで話すことが出来たと思います。

### 後輩へのアドバイス

実習先の先生に、「物事が成功するかどうかは、事前準備が8割だ」と教えていただきました。

自分が納得できるまで準備を行うことで、実習も就職活動も自信を持って取り組むことが出来たと思います。

私は、就職試験を通して、自己肯定感が上がりました。特に、自分と向き合う中で、長所や短所を知り、言語化することで、自己理解を深めることが出来ました。

就職活動は、自分で自分を理解する良い機会だと思います。先の見えない不安を抱えたり、思うように事が進まず、苦しく思う時があったりするかもしれませんが、全ての経験は、人としての力になります。自分を深く知るチャンスだと思って頑張ってください。

## 保育士

Yさん

- ・2024年度 現代教育学部 幼児教育学科 卒業
- ・現在、みよし市立の公立保育園保育士として活躍中

### 志望動機について

幼い頃から年下の子どもたちと触れ合う機会が多くあり、自然と保育士になりたいという夢を持ちました。中部大学に入学し、4年間で沢山の専門的な授業や実習を経験し、保育とは何か学ぶことが出来ました。大学での学びを通して、保育者として働き、子どもや子育て家庭を支えることに、より一層魅力を感じ、保育士になりたいと強く思うようになりました。

### 実習について

実習を通して、いちばんよかったと思ったことは、「改めて保育士を目指したい」と思うことができたことです。実習期間中は、毎日日誌を書いたり、ピアノの練習をしたり、責任実習の準備をしたりと大変なことが多くありましたが、何よりも毎日子どもたちの可愛い姿に癒され、頑張ることができました。準備していったものを子どもたちと一緒に活動していく中で、改善したいところが見つかったり、新しいことを思いついたり、日々成長していると自分で感じる事ができました。授業で学ぶことだけでは経験できない、実際働く時のことを想像できるので、大切な経験をすることができました。

### 採用試験・就職活動について

採用試験については、とにかく行動することが大切です。面接や実技の練習は、先生方にお願いし、その後自分でしっかり振り返り、少し期間を開けてもう一度実践をする。それを繰り返すことで段々出来るようになり、自信がついたと思います。また、自分から友達を積極的に誘い、友達同士でアドバイスをしながら何回も練習を重ねました。そうすることで、同じように頑張っている友達がいる心強さもあり、やる気にも繋がっていったと考えています。

### 後輩へのアドバイス

私は、エントリーシートから本番の面接まで、部活動をやっていたことがとても力になりました。真剣に取り組んでいたからこそ、自信を持って話せましたし、これから保育士として働く時にも活かせることがたくさんあると思っています。部活動でなくても、ボランティア活動や保育現場でのアルバイトなど、自分に合った真剣に取り組めることを見つけてみてください。就職が決まるまで不安な気持ちが続くと思います。友達と協力したり、周りの人に頼りながら、自分を信じて頑張ってください！応援しています。

コンテンツ一覧に  
戻る

## 栄養教諭

Yさん

- ・2015年度 応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 卒業
- ・現在、岐阜県内の公立学校で栄養教諭として活躍中

### 教育実習について

栄養教諭の実習期間は他教科に比べ短い期間でしたが、その分、濃厚な実習となりました。自分が想像していたよりも、授業の中で伝えられる量は少なく、研究授業の指導案についても作成に苦労しました。

栄養教諭は、毎日授業をするわけではないですが、回数が限られている分、難しさも感じました。実習では、栄養教諭以外の先生方の授業も見させていただき、多くのことを学び、考え方も大きく変わりました。

### 教員採用試験について

教職の分野では、他教科で岐阜県の教員採用試験に合格した先輩に勉強方法や、使用したテキストなどいろいろと教えていただきました。特に法律はよく試験に出題されるため、重点的に勉強しました。

専門の分野では、過去問や資料を調べて読み込みました。しかし筆記試験の勉強を始めたのが遅かったので、もっと早くから始めればよかったと思います。

面接は、1次試験では集団面接があり、2次試験では様々な面接がありました。自分の思いを素直に伝えることを心がけ、明るく立ち振る舞うようにして、栄養教諭として働きたいという想いを伝えました。面接はとても緊張しましたが、岐阜県を受験する前に他県を受験したり、給食関係の一般企業の面接を受けたりして面接に慣れたため、落ち着いて話すことができました。グループワークでは相手の意見を尊重しながらも、自分の意見をきちんと伝え、短い時間でしたが堅くなりすぎず、同じグループの受験生と楽しくひとつのものを作りあげました。

私の場合は教員採用試験の後が教育実習でしたが、教育実習を先に経験していれば面接の際に話せることが増えると思います。

### 4年間の思い出について

とても楽しい4年間でした。学業だけでなく、部活動やアルバイトも経験し、充実した大学生活を過ごすことができました。

実習や実験が多い時期には部活動との両立が難しく、大変なときもありましたが、友人や先生方に支えてもらい、どちらもあきらめず最後までやり遂げることができました。また、中部大学は総合大学で、いろいろな学部の人たちと関わることができました。部活動に入部してきた留学生と交流を持てたのもよかったです。

他には、管理栄養科学専攻の海外研修にも積極的に参加して、苦手な英語もがんばりました。学科の友達と一緒に管理栄養士の国家資格に向けて勉強するなど、いろいろなことをがんばった4年間でした。

### これから教職を目指す後輩へ

教員採用試験の勉強は、早めに始める方がいいと思います。先輩など、自分と同じ都道府県を受験した人にお話を聞き、アドバイスをもらえると、心強くなります。今までに知らなかったことや学校現場のこと、疑問に感じたことなどが分かると、もっと勉強しようと思えます。

また大学生活の中では、様々なことにチャレンジすると思います。それらの経験から、いろんな考え方ができるようになったり、教員採用試験や企業の面接のときには、その経験を話すこともできます。成功ばかりではなく、失敗もたくさんあるかと思いますが、乗り越えることで自分の力になると思ってがんばってみてください。応援しています。

## 栄養教諭

Kさん

- ・ 2022年度 応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 卒業
- ・ 静岡県の公立学校栄養教諭として採用試験に合格

### 志望動機について

学校の給食が好きで、このような食事を考えられる人に強い憧れがあり、大学を選びました。大学に入ってから食に関する現代の問題について学ぶだけでなく、様々な年代の人の食に対する価値観に触れることで、食を通じたコミュニケーションや食文化について知ることができました。

学んだことや経験を通して、生涯の食習慣の形成に大きな影響を与える子どもの食に介入し、自身で考えて食選択をすると共に、食を楽しむきっかけづくりに関わりたいと思い栄養教諭を志望しました。

### 実習について

学科の実習と教職の実習とで、自校給食とセンター給食の両方の実際を知ることができました。どちらの方式の学校に配属されるかはわからないことに加え、調理員さんとのかかわり方も異なるため、自分で現場を見ることできてよかったです。

栄養教諭は授業をする機会が少なく、給食の方式によっては関わりが生まれづらい現場もあります。そのなかで児童生徒の実際を知るためには、担任の先生との積極的な関わりや、給食時の巡回・声掛けを意識すると共に、栄養教諭の必要性をしっかりと訴えていく必要があると感じました。

### 採用試験・就職活動について

試験の約1年前から教職教養、一般教養の勉強を始めました。一人では絶対に勉強できないため、教職の先生に自分から頼み込んで、勉強会の機会を設けてもらいました。一緒の目標を目指す仲間と勉強することで、抜け落ちやすい知識を教えあえると共に、先生に教えてもらうことで教採のよく出るポイントを重点的に学ぶことができました。

専門教養は一人で勉強しました。テキストで間違えた問題を繰り返し復習すると共に、学校栄養指導論で学んだ、学習指導要領と食に関する指導の手引きを照らし合わせて重要点を覚えました。ですが、学科の勉強をしっかりとやっていたればある程度しっかり解けるため、まずは学科の勉強を十分にやるのが大切だと思います。

面接では、経験や考えが問われる場なので、自分の意見を自分の言葉でしっかり言う必要があります。自分の考えを裏付ける根拠として経験は重要だと思い、在学中に様々なボランティアに参加して知見を広げました。ボランティアでは知らない人と関わるため、コミュニケーション能力を高めることもできました。

また、県の特徴を把握して、どんな食育活動をしたいか考えました。

面接の練習は勉強会同様、教職の先生へ依頼して練習をしてもらいました。

### 後輩へのアドバイス

学科の勉強との両立は大変だと思いますが、あきらめずに頑張ってください。

勉強は短期間で何とかカバーできますが、自分の考え方やコミュニケーション能力、経験はすぐに得られるものではないため、積極的にボランティアや講演会、部活や資格勉強などに参加して、経験を増やして学んでいってください。

また、今は SNS で栄養教諭の人とつながることができるため、栄養教諭が直面している課題や子供たちの様子などの情報が入手できます。そういった話題について深く考えてみることも教員としての資質能力を高める一歩になると思います。

コンテンツ一覧に  
戻る